

バーコードハンディターミナル PET-100-M





株式会社ウェルキャット



商標について

- Microsoft、Windows、Visual Basic は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登 録商標または商標です。
- Bluetooth は Bluetooth SIG, Inc.の登録商標であり、株式会社ウェルキャットはライセンスに基づいて使用しています。
- ・本製品には、株式会社リコーによって開発されたビットマップフォントが搭載されています。
- ・各マニュアルの著作権は株式会社ウェルキャットにあります。
- ・各マニュアルの一部または全てを無断で使用、複製することはできません。
- その他記載されている製品名および会社名は、それぞれの企業の登録商標または商標です。

正しく安全にお使い頂くために

弊社製品をお買上げ頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用の前にこのユーザーズマニュアルをよくお読みになり、製品の適正な使用および保守することが重要です。 製品の仕様・機能・内容の確認に努め、使用する際には表示・マニュアルをよく読み、事故につながるような使い 方をしないように心がけましょう。製品の保守・点検をこまめに行うことも大切です。表示内容を無視して誤った 使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明します。表示は危険の程度で分類されていま す。

危険

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される 緊急性が高い内容を示しています。

<u>∧</u>警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。

∕∖注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想 定される内容を示しています。

以下の絵表示は、お守り頂く内容区分を説明しています。



このような絵表示はしてはいけない「禁止」であることを示します。図の 中に具体的な禁止の内容が示されています。



このような絵表示は必ずして頂く「強制」であることを示します。図の中 に具体的な指示の内容が示されています。



このような絵表示は注意を促す内容であることを示します。図の中に具体 的な注意の内容が示されています。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するためにも、次の事柄は必ずお守りください。

必ずお守りください



製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している危険、警告、注 意の表示を厳守してください。

PET-100-M 本体、乾電池、バッテリーパック(BP-001)共通



▲ 警告



バッテリーパックの充電の際、所定 の充電時間を超えても充電が完了 しない場合は、充電をやめてくださ い。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因と なります。

発熱・発煙・異臭などが発生した時 は、電源を切り乾電池ケースまたは バッテリーパックを取外してくだ さい。

そのまま使用すると、発熱、発火の原因 となります。乾電池またはバッテリーパ ックではさらに漏液、破裂の原因ともな ります。



乾電池ケースまたはバッテリーパ ックの端子や、本体の電池端子/充 電端子に手や指など身体の一部が 触れないようにしてください。

感電、傷害、故障の原因となる場合があ ります。

バッテリーパックの充電は専用充 電器を使用してください。

他の充電器で充電すると、バッテリーパ ックが発熱、破裂、発火する原因となり ます。



漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因と なります。



分解、改造をしないでください。

けがや感電、火災などの事故または故障 の原因となります。内部の点検、調整は お買上げの販売店にお任せください。 万一、改造などにより生じた問題につい ては、一切の責任を負いかねます。



薬品に近づけないでください。

薬品が触れる場所や薬品のそばで使用、 保管しないでください。感電、火災など の事故または故障の原因となります。

乾電池を使用する場合、単三形アル カリ乾電池(LR6)を使用してくだ さい。

マンガン電池およびニカド (Ni-Cd)や ニッケル水素 (Ni-MH) 等の充電式電 池は、絶対に使用しないでください。 故障や破損、発火の危険があります。

高温となる場所、湿気・ほこりの多い場所で使用・保管しないでください。

火のそば、直射日光が当たるところなど高温になる場所での使用や保管は避けてください。火災 などの事故またはケースの変形や故障の原因となります。また湿気、ほこりの多いところでの使 用や保管は避けてください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。



不安定なところに置かないでくだ さい。

機器が落ちたり倒れたりして、けがや機 器の故障の原因となります。



乳幼児の手の届くところに置かな いでください。

けがなどの原因となります。

本製品は、事務用、産業用などの一般的用途を想定したものであり、以下のような高度な安全性が要求される用途での使用を想定した製品ではありません。



・陸上、海上、航空輸送ならびに交通の運行制御管理、原子力核施設の制御管理、生命 維持装置の制御管理など

弊社は、このような生命、人体、環境に対し重大な危険性を伴う用途での使用により発生した損 害に対し、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

PET-100-M 本体について

\警告

持ち運びの時には、ハンドストラッ プが引っ掛からないようにしてく ださい。

ハンドストラップの取扱いには十分注 意してください。ハンドストラップが他 の物に引っ掛かると、けがや事故の原因 となります。 高精度な制御や微弱な信号を扱う 電子機器の近くでは使用しないで ください。

電子機器(医療用電子機器、火災報知器、 自動ドア、その他の自動制御機器など) が誤動作するなどの影響を与えること があります。



異物を本体の内部に入れないでください。

もし本体の内部に異物や液体が入った場合は使用を中止し、お買上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると感電、火災などの事故または故障の原因となります。

、注意



パソコンや蛍光灯、電子レンジなど のノイズを発する機器からはなる べく離して使用してください。

ノイズの影響により正常に通信できな くなる場合があります。



本体を落とす、投げる、叩くなどしない でください。故障の原因となります。

磁石、ブザー、スピーカ、ブラウン 管や、RFID のアンテナ近くなど、 強い磁界が発生する恐れがあると ころで使用、保管しないでくださ い。

本体の誤動作や故障の原因となります。



床や机に置いたまま、あるいはチャージ ャに置いたままの状態で操作をすると 機器の故障や誤作動の原因となります。



水中に入れたり、強い勢いで水をか けたりしないでください。

本体は水没、噴射水に対し保護されませ ん。内部に水が入り感電、火災などの事 故または故障の原因となります。

アルカリ乾電池について

<u> </u>危険

アルカリ乾電池のアルカリ性溶液 には、直接触れないようにしてくだ さい。



アルカリ溶液が皮膚、衣服に付着した時 は、すぐにきれいな水で洗い流してくだ さい。また、液が目に入った時は、こす らずにすぐにきれいな水で洗った後、直 ちに医師の診療を受けてください。 アルカリ性溶液が目に入った時は、失明 など傷害の恐れがあります。



乾電池ケースに装着する時、+と-を逆に装着しないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因に なります。



使用前、使用後を問わず乾電池を保管す る場合は、端子同士が触れることがない ようにしてください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因に なります。



乾電池を火の中に投入したり、加熱 しないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因に なります。



乾電池をつけたま長時間放置しな いでください。

長時間放置する場合は、必ず乾電池を取 外してください。 漏液や破裂の原因になります。



漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因に なります。



漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因に なります。



乾電池は、単三形アルカリ乾電池 (LR6)を使用してください。 単三形アルカリ乾電池(LR6)以外 の電池は使用できません。

寸法、電圧値などが本製品の設計値と異 なる場合があり、漏液、発熱、破裂、発 火、故障の原因になります。







直射日光の強いところや炎天下の車内 など高温の場所で使用、放置、保管をし ないでください。 漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因に なります。 電池のメーカーにより仕様や性能 が合わない場合があります。弊社推 奨アルカリ乾電池をご使用くださ い。

バッテリーパック(BP-001)について

使用済みバッテリーパック(BP-001)について



Li-ion

PET-100-M にはリチウムイオン二次電池(バッテリーパック:BP-001)を使用することがで きます。リチウムイオン二次電池は、「資源有効利用促進法」により、電池メーカーおよび電池 を使用する機器メーカーに回収・リサイクルが義務付けられた小型二次電池です。弊社では一般 社団法人 JBRC の会員として、使用済み小型二次電池の回収・リサイクルを実施しております。 寿命となったバッテリーパックは一般のゴミと一緒に捨てず、回収に関しては弊社までお問合せ ください。

<u> </u>危険



バッテリーパックが漏液して液が皮膚、衣服に付着した時は、すぐにきれいな水で洗い 流してください。また、液が目に入った時は、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、 直ちに医師の診療を受けてください。

放置すると、失明やその他傷害を起こす原因となります。

バッテリーパックを火の中に投入 したり、加熱したりしないでくださ い。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となりま す。 バッテリーパックを水や海水など に漬けたり、濡らしたりしないでく ださい。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となりま す。

釘をさしたり、ハンマーで叩いた り、踏みつけたりしないでくださ い。 漏液、発熱、破裂、発火の原因となりま す。



バッテリーパックが漏液、変形・変色した時には使用しないでください。

そのまま使用すると、バッテリーパックの発熱、破裂、発火、または漏液の原因となります。また火気に近づけると漏液した電解液に引火する恐れがあります。

レーザ安全基準について

本製品はレーザ製品の安全基準(JIS C 6802) クラス2に準拠しています。

最大出力:1mW

波長:650±10nm

クラス2ではまばたき等の嫌悪反応で目が保護されますが、レーザ光をのぞき込んだり直接目に入れたりしな いでください。

レーザに関する警告ラベル



注意

ユーザーズマニュアルに反した使用や、製品の分解はしないでください。 危険なレーザ 照射の被ばくを招くことがあります。

液晶画面について

製品によってバックライト色や輝度に若干違いのあることがございますが、これは液晶の特性によるバラつき であり不良ではありません。

電波に関する注意

- ■本機は電波法に基づく工事設計の認証を受けた無線設備を内蔵しています。
- ■本機を分解したり、本機の内部に触れることは電波法で禁止されており、法律で罰せられることがあります。故障の際の内部点検、調整はお買上げの販売店にお任せください。

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。

- ・心臓ペースメーカーや医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。 医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- ・電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。 電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用され ている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)、特定小電力無線局(免許を要しない無線局)、アマ チュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- ・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用 されていないことを確認してください。
- ・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、弊社営業担当にご連絡頂き、混信回避のための処置等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
- ・その他、この機器から移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して有害な電 波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきた時は、弊社営業担当へお問合わせください。

製品銘板に記載されている 2.4FH1 は、次の内容を意味しています。

2.4	使用周波数带域	2.4GHz 帯
FH	変調方式	FH-SS 方式
1	想定干涉距離	10m 以下
	周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可 であることを意味する。

・本機は日本国内でのみ使用可能です。海外では電波規格が異なるため、使用できません。

目次

商標について	
正しく安全にお使い頂くために	
目次	
マニュアルの構成	
■本製品マニュアル	
■関連機器マニュアル	
本書の見方	
■本書の構成	
■表記上の注意	
システム体系	
■製品構成	
■赤外線通信(IrDA)システム構成	
■Bluetooth 通信システム構成	22

第1章 ハードウェア

1-1 製品について	24
1-1-1 同梱品の確認	24
1-1-2 別売品	24
1-1-3 各部の名称と機能	
■LED 表示の意味	
■操作キーの働き	
1-2 本体の使い方	
1-2-1 ハンドストラップの取付け	
1-2-2 乾電池で使用する場合	
■乾電池の取付け	
■乾電池の取外し	
1-2-3 バッテリーパックで使用する場合(オプション)	
■バッテリーパックの取付け	
■バッテリーパックの取外し	
1-2-4 バッテリーの充電	
■1 台を充電する	
■複数台を充電する	
1-2-5 電池の残量表示とアラーム	41
■電池の残量	41
■バックアップ用電池の充電	
1-2-6 メモリのバックアップ	

1-2-7 長期保管する場合	
■本製品の長期保管	
■バッテリーパックの長期保管	
■バックアップが行われない場合の表示	
1-3 通信の種類	
■赤外線(IrDA)通信	
■Bluetooth 通信	
1-4 基本的な使い方	
1-4-1 電源の ON/OFF	
1-4-2 バーコードの読取りかた	51
■読取りかた	51
1-4-3 使用時に役立つ機能	
■バックライトの点灯	
■液晶画面の設定	
■ブザー音量の調整	
■バッテリー残量の確認	
■レジューム機能(電源 OFF 時の状態保持)	
■オートウェイクアップ(設定した時間に電源 ON)	
■オートパワーオフ(自動的に電源 OFF)	
1-5 お手入れのしかた	54

第2章 ソフトウェア

2-1	ソフトウェアについて	56
2-	-1-1 データについて	56
	■ドライブの構成	56
	■ファイル名について	57
	■拡張子について	57
	■システムやアプリケーションソフトが作成するファイル	57
2-2	アプリケーションソフトの開発	58
	■ファイル転送環境	58
	■開発ツール	58
2-3	通信の方法	59
	■赤外線(IrDA)通信	59
	■Bluetooth 通信	60
2-4	通信環境の設定	61
2-4	4-1 赤外線(IrDA)通信環境の設定	61
2-4	-4-2 Bluetooth 通信環境の設定	63
2-5	アプリケーションソフトのダウンロード方法	64
2-	-5-1 USB 通信ユニットによるダウンロード	64

■機器の準備	64
■使用前の準備	64
■設定ウィザードが起動する場合	64
■転送ユーティリティ BluePorter-V の起動	
■通信設定	
■ファイルのダウンロード	
2-5-2 Bluetooth USB アダプタによるダウンロード	67
■機器の準備	
■使用前の準備	68
■設定ウィザードの実行	
■端末の設定	
■転送ユーティリティ BluePorter-V の起動	
■通信設定	
■ファイルのダウンロード	
2-6 アプリケーションソフトの実行方法	73
■ファイルリストから選択して実行	
■起動時に自動実行	

第3章 システムメニュー

3-1 S	システムメニューの使い方	76
3-1-1	操作キー	
∎=	キーの文字割当て一覧	77
3-1-2	システムメニューの起動	
3-1-3	初めてシステムメニューを起動する時	
3-1-4	システムメニューの操作方法	
	設定項目の選択	81
∎ ±	キーでデータを入力する	82
∎₹	その他の操作	83
■ /	バーコードでデータを入力する	84
3-2 S	システムメニュー一覧	
3-2 5 3-3 5	ンステムメニュー一覧 ンステム:便利な機能	85 86
3-2 3-3 3-3-1	ンステムメニュー一覧 ンステム:便利な機能 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行	85 86
3-2 3-3 3-3-1 3-3-2	ンステムメニュー一覧 ンステム:便利な機能 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行 時計:時刻の設定・確認	85
3-2 3-3 3-3-1 3-3-2 ■Đ	ンステムメニュー一覧 ンステム:便利な機能 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行 時計:時刻の設定・確認 現在の時刻	85 86 87 88 88
3-2 ≥ 3-3 ≥ 3-3-1 3-3-2	ンステムメニュー一覧 ンステム:便利な機能 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行 時計:時刻の設定・確認 現在の時刻	85
3-2 3-3 3-3-1 3-3-2 ■ 1 ■ 1	 ウステムメニュー一覧 ウステム:便利な機能 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行 時計:時刻の設定・確認 現在の時刻 マニュアル設定:マニュアルで時刻を設定 サーバ設定:サーバから自動的に時刻を設定 	85
3-2 3-3 3-3-1 3-3-2 ■ ↓ 3-3-2 ■ ↓ 3-3-3	 マステムメニュー一覧 ウステム:便利な機能 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行 時計:時刻の設定・確認 現在の時刻 マニュアル設定:マニュアルで時刻を設定 サーバ設定:サーバから自動的に時刻を設定 電源管理:電源に関する各種設定 	85 87 87 88 88
3-2 3-3 3-3-1 3-3-2 単型 二、 3-3-3	 マステムメニュー一覧 白動実行:アプリケーションソフトの自動実行	85 87 87 88 88

目次

■オートウェイクアップ:決められた時間に起動	
■オートパワーオフ:自動的に電源 OFF	93
3-3-4 パスワード:パスワードの設定・解除	
■設定:パスワードの設定	95
■解除:パスワードの解除	95
3-4 受信:Bluetooth • 赤外線通信でファイルを受信	
3-4-1 Bluetooth:Bluetooth 通信でファイルを受信	
3-4-2 IrDA:赤外線通信でファイルを受信	
3-5 ファイル:ファイルの実行・送信・削除など	
■実行:アプリケーションソフトの実行	
■閲覧:ビットマップファイルの表示	
■情報:ファイル詳細情報を表示	
■送信:ファイルをパソコンや他の端末に送信	
■削除:ファイルを削除	
■テスト:ファイルの破損をチェック	
■全てチェックをつける:全てのファイルを選択	
■全てチェックをはずす:全てのファイルの選択をはずす	
3-6 端末 ID:端末識別用 ID を設定	
3-7 デバイス:ハードウェアの機能を設定	
3-7-1 バーコード:バーコードスキャナの設定	
■トリガモード	
■デコードレベル	
■スキャン角度	
■反転バーコード	
3-7-2 キー:キー入力の設定	
3-7-3 Bluetooth:Bluetooth の登録設定	
■ローカルデバイス	
■リモートデバイス	
3-7-4 画面:液晶画面の設定	
■コントラスト	
■バックライト輝度	
3-7-5 音/ バイブ :音量・LED・バイブレータの設定	
■ボリューム	
■インジケータ	
■キークリック音	
3-8 メンテナンス:基本情報とメンテナンスの設定	
3-8-1 電池残量:乾電池/バッテリーパック残量の確認	
3-8-2 システムバージョン:OS バージョンの確認	
3-8-3 初期化:レジストリ/ドライブの初期化	
3-8-4 クローン:複製の作成	131

■ク	ローン実行の手順	
∎マ	ンスター:本製品が複製元	
	ピー:本製品が複製先	
3-8-5	ドライブ:ドライブ情報の表示	
3-8-6	長期保管:長期間使用しない時の設定	137
3-8-7	ウィザード:簡単に通信設定ができる画面の起動	
3-8-8	BHCP:システム設定とファイルの起動時自動ダウンロード	
■テ	バイスの種類	
■ス	タートアップの種類	
■更	新禁止項目	141
■更 3-9 テ	新禁止項目 スト:ハードウェアデバイスのテスト	141 142
■更 3-9 テ 3-9-1	新禁止項目 スト:ハードウェアデバイスのテスト Bluetooth:Bluetooth 通信のテスト	141 142 142
■更 3-9 テ 3-9-1 3-9-2	新禁止項目 スト:ハードウェアデバイスのテスト Bluetooth:Bluetooth 通信のテスト IrDA:赤外線通信のテスト	141 142 142
■更 3-9 テ 3-9-1 3-9-2 3-9-3	新禁止項目 スト:ハードウェアデバイスのテスト Bluetooth:Bluetooth 通信のテスト IrDA:赤外線通信のテスト バーコード	141 142 142
■更 3-9 万 3-9-1 3-9-2 3-9-3	新禁止項目 スト:ハードウェアデバイスのテスト Bluetooth:Bluetooth 通信のテスト IrDA:赤外線通信のテスト バーコード	141 142 142 143 143
■更 3-9 テ 3-9-1 3-9-2 3-9-3 ■// 3-9-4	新禁止項目 スト:ハードウェアデバイスのテスト Bluetooth:Bluetooth 通信のテスト IrDA:赤外線通信のテスト バーコード ズーコードオプション 画面:液晶画面のテスト	

第4章 仕様

4-1 製	品の仕様	
4-1-1	PET-100-M	
■タ	ト形寸法	
4-1-2	QC-006 シングルチャージャ	
4-1-3	QC-007 マルチチャージャ	
4-1-4	IU-004 USB 通信ユニット	
4-1-5	IU-004C USB 通信/充電ユニット	
4-1-6	IU-004CL LAN 通信/充電ユニット	
4-2 読	取仕様	
4-2-1	レーザ光の照射角度	
4-2-2	読取深度	
4-2-3	バーコードの傾きと読取り可能角度	
■ス	、キュー	
∎Ł	ピッチ	
∎チ	-ルト	
4-3 	i面出力キャラクタ	
■全	全角文字	
■半	全角文字	
4-4 7	ゲー周波数	
4-5 V	ジストリ	

第5章 よくある質問と回答

5-1	よくある質問と回答	
5-2	読取りが困難なバーコード	
製品	品保証	
	■製品保証について	
消耗	色品	
	■保守について	
	■修理について	
	■消耗品	

付録

付録 -1	出荷時設定一覧	176
付録 -2	サンプルバーコード	178
付録 -3	用語集	182

マニュアルの構成

■本製品マニュアル

次のマニュアルが、製品付属の CD-ROM に収められています。

マニュアル	内容
PET-100-M	本書です。
ユーザーズマニュアル	使用上の注意、各部の名称、操作方法、システムメニュー操作法、仕様な
	どについて説明しています。
QC-006	シングルチャージャのマニュアルです。
ユーザーズマニュアル	充電方法、仕様について説明しています。
QC-007	マルチチャージャのマニュアルです。
ユーザーズマニュアル	充電方法、仕様について説明しています。
IU-004、IU-004C	USB 通信ユニットのマニュアルです。
ユーザーズマニュアル	通信方法、仕様について説明しています。IU-004C は充電機能付きです。
IU-004CL	LAN 通信/充電ユニットのマニュアルです。
ユーザーズマニュアル	通信方法、仕様について説明しています。
BP-001 取扱説明書	リチウムイオンバッテリーのマニュアルです。
DC-007 取扱説明書	PET-100-M 本体をほこり、傷から守る保護カバーのマニュアルです。

■関連機器マニュアル

マニュアル	内容
WLF-003 BluePorter-V	転送ユーティリティのマニュアルです。
マニュアル *	Bluetooth USB アダプタまたは USB 通信ユニットを使用して、 PET-100-M とパソコン間でファイルの送受信をするためのソフトです。
WLF-004 BluePorter-L	IU-004CLを使用して、PET本体とネットワーク上のサーバ間でファイ
マニュアル *	ルの送受信をするためのソフトです。

* 各ソフトウェアの中に組込まれたオンラインヘルプです。

本書の見方

■本書の構成

本書は、次の内容で構成されています。

<u>システム体系</u>	本製品のシステム構成の全体を説明しています。製品のご理解にお役 立てください。
<u>第1章 ハードウェア</u>	本製品各部の使い方、バッテリーの取付け・充電、バーコードの読取 りかたなど、ハードウェアの使い方について説明しています。
<u>第2章 ソフトウェア</u>	アプリケーションソフトを開発するための環境、開発方法、インスト ール手順、実行方法について説明しています。
第3章 システムメニュー	基本的な機能の操作方法とシステムメニューについて説明していま す。
<u>第4章 仕様</u>	製品の仕様一覧です。
<u>第5章 よくある質問と回答</u>	よくある質問やトラブル、それらを解決するために確認する必要のあ る項目について説明しています。
製品保証	製品保証について説明しています。
<u>消耗品</u>	消耗品について説明しています。
付録	出荷時設定、サンプルバーコードが記載されています。

■表記上の注意

本書では、次の表記が使用されています。

注意	守って頂きたい事項、操作上注意を要する事項を記載しています。この記載をよく お読みになり、必ず指示に従ってください。
参考	役立つ情報やヒントとなる情報を記載しています。
参照	関連する情報が記載されているページや他のマニュアルを紹介しています。
【】 =	操作パネルのキー名称は【 】で記載しています。(例)【PW】キー
[]	画面に表示される項目は[]で記載しています。(例)[システムメニュー]
操作手順	システムメニューの操作方法を説明しています。
	システムメニューの操作で、入力フォーマットが固定され、文字を削除、変更でき ない項目です。それらの操作説明には、このマークを記載しています。
	システムメニューの一部の操作では、実行時の電池残量が規定値 (操作により異な ります)を下回る場合、操作が制限されます。それらの操作説明には、このマーク を記載しています。

システム体系

■製品構成

本製品を使用するための基本的な製品構成です。必要に応じてご用意ください。



■赤外線通信(IrDA)システム構成

赤外線(IrDA)を使ってパソコンと通信する場合のシステム構成です。



■Bluetooth 通信システム構成

Bluetoothを使って他の機器と通信する場合のシステム構成です。







1-1 製品について

1-1-1 同梱品の確認

本製品には、次の品が同梱されています。全てが揃っていることをご確認ください。

もし不足品、不良品等ありましたら、弊社までご連絡ください。



1-1-2 別売品

本製品には、以下の関連製品があります	。必要に応じてご用意ください。
--------------------	-----------------

製品名	型番	説明
バッテリーパック	BP-001	充電式のリチウムイオンバッテリーです。
バッテリーパックケース	BC-002	バッテリーパックを使用する場合のケースです。
バッテリーパック	BP-001C	バッテリーパックとバッテリーパックケースのセット製
(ケース付き)		品です。
乾電池ケース	BC-001	単三形アルカリ乾電池を使用する場合のケースです。
保護カバー	DC-007	傷やほこりから本体を保護するためのカバーです。
シングルチャージャ	QC-006	本体充電およびバッテリーパック充電をする充電器です。
		本製品1台、バッテリーパック1台を充電可能です。

第1章 ハードウェア

1-1 製品について

製品名	型番	説明
マルチチャージャ	QC-007	本体充電およびバッテリーパック充電をする充電器です。 本製品4台、バッテリーパック4台を充電可能です。
 携帯ホルダ	CB-001	本製品を収納して、腰に装着するホルダです。
USB 通信ユニット	IU-004	本製品とパソコン間を結ぶ充電機能のない通信ユニット です。
		本製品とIU-004間は赤外線、IU-004とパソコン間はUSB で通信します。
USB 通信/充電ユニット	IU-004C	本製品とパソコン間を結ぶ充電機能付き通信ユニットで す。
		本体充電およびバッテリーパック充電をする充電機能が ついており、本製品 1 台、バッテリーパック 1 台を充電 可能です。
		本製品と IU-004C 間は赤外線、IU-004C とパソコン間は USB で通信します。
LAN 通信/充電ユニット	IU-004CL	本製品とパソコン間を結ぶ充電機能付き通信ユニットで す。
		本体充電およびバッテリーパック充電をする充電機能が ついており、本製品 1 台、バッテリーパック 1 台を充電 可能です。
		本製品と IU-004CL 間は赤外線、IU-004CL とパソコン間 は LAN で通信します。
転送ユーティリティ BluePorter-V	WLF-003	パソコンとファイル送受信をする転送ユーティリティで す。
		USB 通信ユニットによりファイル送受信が可能です。
		IU-004/004C を使用する時に必要です。
LAN 対応転送ユーティリ ティ	WLF-004	パソコンとファイル送受信をする転送ユーティリティで す。
BluePorter-L		IU-004CL を使用して、PET-100-M とネットワーク上の サーバ間でファイルの送受信をするためのソフトです。

1-1-3 各部の名称と機能



番号	名称	説明
1)	動作状態 LED	動作状態は、次項「■LED 表示の意味」(P. <u>27</u>)を参照。
2	液晶表示部	データや文字、画像を表示します。
3	操作キー部	キーの働きは、次々項「■操作キーの働き」(P. <u>28</u>)を参照。
4	赤外線通信ポート	赤外線(IrDA)により、他のハンディターミナルや USB 通信ユニット と通信します。
5	ハンドストラップ取 付け用穴	ハンドストラップを取付けます。
6	充電端子	シングルチャージャ、マルチチャージャの充電用端子です。
\bigcirc	スピーカ	読取り音や警告音を鳴らします。
8	読取り口	バーコードの読取り口です。
		※レーザ光が照射されるのでのぞき込まないでください。
9	製品銘板	製品名や製造元、レーザ警告等が記載されています。
10	ロックレバー	バッテリーパックケース、乾電池ケースのロック/解除をします。矢印 の方向にレバーを移動するとロックされます。ご使用の際は、必ずロ ックしてください。
1)	乾電池ケース	乾電池を装着する際に使用します。 乾電池を乾電池ケースに装着して、本体に装着します。

番号	名称	説明
(12)	バッテリーパックケ	バッテリーパック装着の際に使用します。
	ース(別売)	バッテリーを本体に装着してからバッテリーパックケースで蓋をしま
		च _°
(13)	シリアル番号シール	シリアル番号が記載されています。
		問合せ等の際は、このシリアル番号をご連絡ください。
(14)	電極	バッテリーパックや乾電池ケース用の電極です。
(15)	ハンドストラップ	本体に取付けてお使いください。

■LED 表示の意味

本体上部の LED 表示は、次のような動作状態を表します。

バーコード読取り時	緑色点灯	バーコード読取り成功
	赤色点灯	バーコード読取り失敗
充電時	赤色点灯	充電中
	緑色点灯	充電正常完了
	消灯	充電エラー

■操作キーの働き

操作キーは、次のような働きをします。



名称	説明
読取りキー	バーコードを読取ります。
ファンクションキー	機能の切替えなどに使用します。
矢印キー	カーソル操作をします。
	「◀F5」「▲F6」「▼F7」「▶F8」を指定する場合、各矢印キーに F5~F8 が割当てられています。ライブラリ等で使用します。
ENT +-	エンターキー。入力したデータや操作を確定、実行します。
C +	キャンセルキー。操作を一つ前の状態に戻したり、入力した文字を全て消去 したりします。
BS +-	バックスペースキー。入力した一つ前の文字を消去します。
SF +	シフトキー。文字入力モードを切替えたり、他のキーと一緒に押すことで特殊な働きをします。
PW +-	電源キー。電源を ON/OFF します。
ドットキー	記号キー。各種記号を入力します。
テンキー	割当てられた数字や文字を入力したり、メニューで項目を選択したりします。



システムメニュー操作時のキーの働きは、「3-1-1 操作キー」(P.<u>76</u>)を参照してくだ さい。

1-2 本体の使い方

1-2-1 ハンドストラップの取付け

ハンドストラップの取付け用穴は、背面の下部に左右2箇所にあります。



①細いほうのひもを、取付け用穴に通します。

②太いほうのひもを、取付け用穴に通した細いひもに通して固定します。

ハンドストラップを持って本体を振り回さないでください。細いひもの部分が摩耗し、切れる恐れがあります。



- ・ハンドストラップに腕を通した状態で本体が可動機器などに挟まれるなどした場合、
 手を引き込まれ、思わぬ事故の原因となりますので十分注意してください。
- ・マルチチャージャ(QC-007)で充電する場合、ハンドストラップは本体の正面右側 になるように装着してください。

1-2-2 乾電池で使用する場合

同梱の乾電池ケースを使って、乾電池を本製品に装着します。 単三形乾電池は、同梱されていません。お客様にてご用意ください。

- ・乾電池は、単三形アルカリ乾電池(LR6)を使用してください。
 アルカリ乾電池には、弊社推奨の「パナソニック株式会社の単三形アルカリ乾電池」
 を使用してください。
 単三形アルカリ乾電池(LR6)以外の電池は使用できません。
 マンガン電池およびニカド(Ni-Cd)やニッケル水素(Ni-MH)等の充電式電池は、
 絶対に使用しないでください。故障や破損、発火の危険があります。
- 注意 ・消耗した乾電池を付けたまま長期間放置しないでください。漏液の原因になります。
 - ・新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - ・メーカーの異なる乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - ・充電は、絶対しないでください。
 ただし、乾電池ケースを使用している場合、本製品を IU-004C、IU-004CL、
 QC-006/007 に装着しても、充電は行われません。
 - ・乾電池をご使用の場合は、乾電池メーカーの使用上の注意をお守りください。

■乾電池の取付け

①乾電池を乾電池ケースに装着します。

プラス(+)、マイナス(-)の向きを確認してください。





乾電池を挿入する時は、必ずマイナス(-)側から差込んでください。また、差込む場 合はマイナス側のバネを強く押さえつけながらプラス(+)側端子を差込んでください。 バネをよく押し込んでからプラス(+)側を差込まないと端子を破損する恐れがありま す。 ②乾電池ケースの爪を本体に引っ掛け、ロックレバー側を押込みます。

爪が本体側の引っ掛け穴にしっかり入り込んでいることを確認してください。

③ロックレバーを矢印の方向(バッテリーの方向)にカチッと音がするまで動かします。 ロックレバーの下側に隙間がないことを確認してください。



・ロックレバーが完全に矢印方向に下がり、隙間がないことを確認してください。
 スライド途中で引っ掛かり感がありますが、そこで止めずに下一杯までスライドさせてください(防水性を保つためにスライドが硬くなっています)。
 ロックが不完全な場合、乾電池ケースがはずれたり落下時の破損の原因になります。
 動作中に乾電池ケースがはずれると、Sドライブに保存してあるファイルやレジューム情報が消失します。



- ・電極を触ったり、引っ掛けたりしないでください。 ゴミが付着したり、変形による接触不良の原因になります。
- ・乾電池ケースには、水の浸入を防ぐためのパッキンが取付けられています。装着する
 際は、パッキンがはずれていないか、ゴミが付着していないか確認してください。ゴ
 ミが付着している場合は、乾いた清潔な布などで拭き取ってください。

■乾電池の取外し

注意

電源が完全に OFF になっていることを確認してから取外してください。

①ロックレバーを矢印の方向(読取り口の方向)に動かし、ロックを解除します。

②乾電池ケースをロックレバー側から手前に引いてはずします。



消耗した電池は、乾電池ケースからはずして処分してください。



乾電池を乾電池ケースからはずす場合は、必ずプラス(+)側からはずしてください。 マイナス側から無理にはずすと電極を破損する可能性があります。 注意

1-2-3 バッテリーパックで使用する場合(オプション)

■バッテリーパックの取付け

バッテリーパック(BP-001:別売)で使用する場合は、バッテリーパックケース(BC-002:別売)が 必要になります。

・指定されたバッテリーパック以外は使用しないでください。
 ・初めて使用する時は、必ず充電してからお使いください。

①バッテリーパックを、型番名称印刷面を手前にして端子側から挿しこみ、反対側を押込みます。



- ②バッテリーパックケースの爪を本体に引っ掛け、反対側を強く押込みます。 爪が本体側の穴にしっかり入っていることを確認してください。
- ③ロックレバーを矢印の方向(バッテリーの方向)にカチッと音がするまでスライドします。 ロックレバーの下側に隙間がないことを確認してください。



・ロックレバーが完全に矢印方向(バッテリーの方向)に下がり、隙間がないことを確認してください。
 ロックが不完全な場合、バッテリーパックがはずれたり落下時の破損の原因になります。

動作中にバッテリーパックがはずれると、Sドライブに保存してあるファイルやレジ ューム情報が消失します。

注意

- ・バッテリーパックケースには、水の浸入を防ぐためのパッキンが取付けられています。
 装着する際は、パッキンがはずれていないか、ゴミが付着していないか確認してください。
 - ・電極を触ったり、引っ張ったりしないでください。ゴミが付着したり、変形による接 触不良の原因になります。ゴミが付着したり、汚れたりした場合は清潔な乾いた布で 清掃してください(「1-5 お手入れのしかた」(P.54)参照)。

■バッテリーパックの取外し

バッテリーパックを本体から取外します。

注意

電源が完全に OFF になっていることを確認してから取外してください。

①ロックレバーを矢印の方向(読取り口の方向)に動かし、ロックを解除します。

②バッテリーパックケースをロックレバー側から手前に引いてはずします。



③バッテリーパック上部に指を引っ掛け、持上げながらバッテリーパックを取出します。


1-2-4 バッテリーの充電

本製品をバッテリーパックで使用する場合、専用の充電器(別売)で充電します。充電方法には、本 体充電とバッテリーパック充電の2種類があります。

- ・本体充電:本体にバッテリーパックを装着した状態で充電
- ・バッテリーパック充電:バッテリーパック単体で充電

充電器には、次の種類があります。

・1 台を充電:シングルチャージャ(QC-006)、USB 通信/充電ユニット(IU-004C)、LAN 通信/充電ユニット(IU-004C)、LAN 通信/充電ユニット(IU-004CL)

• 複数台(最大 4 台)を充電:マルチチャージャ(OC-007)

- ・本製品は、充電中でもファイル送信等の動作はできます。しかし、倒れたり充電端子の接触不良を起こす恐れがありますので、キー操作はしないでください。
- ・充電は、0℃~40℃の環境で行ってください。これを超える温度範囲の場合、充電エラーになります。
 充電エラーになっても、適正温度になると充電が再開されますが、故障の原因となりますので、0℃~40℃の範囲外では使用しないでください。
- ・充電しても、端末が起動しない、極端に短い時間でローバッテリーが発生するなどの 場合は、以下のことが考えられます。

□0°C~40°Cの範囲外での充電

・充電器に装着した時点で充電が開始されても、充電中に温度範囲を超えると、
 その時点で充電エラーとなり、充電を停止します。
 また、0℃~40℃の温度範囲であっても、低温の場合は充電可能な容量が低下し、使用時間が短くなります。

注意

- ・バッテリーパックの端子が正しく接触されていない場合や充電が規定時間を上回っても完了しない場合、またはバッテリーパックの電圧が異常な場合は、0°C ~40°Cの温度範囲であっても充電エラーになることがあります。
 その場合は、直ちに充電を中止してください。本体の充電電極とバッテリーパックの端子を清掃しても充電エラーになる場合は、弊社にお問合せください。
- □バッテリーパックの劣化
 - バッテリーパックは、充放電を繰返すうちに劣化し、充電可能な容量が低下しま す。使用時間が短くなり運用に耐えられなくなった場合は、新しいバッテリーパ ックに交換してください。
- □充電電極の接触不良

バッテリーパックまたは本製品の充電電極がゴミなどで汚れている場合は、接触 不良により正常に充電できない場合があります。その場合は、清潔な布で拭き清 掃してください。



本製品とバッテリーパックを同時にセットした場合は、本製品の充電が優先されます。 本製品の充電が完了すると、バッテリーパックの充電が開始されます。

●充電状態

本体充電の充電状態は、本体の LED に表示されます。バッテリーパック充電の充電状態は、充電器の LED に表示されます。

	本体充電	バッテリーパック充電
充電中	赤色点灯	赤色点灯
充電完了	緑色点灯	緑色点灯
充電エラー	消灯	消灯

●充電時間

	本体充電	バッテリーパック充電
充電時間	2.5 時間	2.5 時間

■1 台を充電する

次の手順で充電します。

①充電器の背面にある DC ジャックへ AC アダプタの DC プラグを差込みます。

AC アダプタに AC コードを接続し、AC コードのプラグをコンセントに接続します。



 $\mathsf{AC} \sqsupset - \mathsf{k}$

接続後、充電器の前面にある POWER LED が点灯していることを確認してください。



②本製品またはバッテリーパックを充電器に装着します。 本製品とバッテリーパックを同時に充電することもできます。



図は、シングルチャージャ (OC-006) の例です。

バッテリーパックは、端子側を下にして製品型番(BP-001)などが印刷されている面を手前にして装着します。バッテリーパックの端子部を、充電器の充電端子に接触させ、カチッと音がするまで押して爪に引っ掛けます。

本製品とバッテリーパックを同時に充電する場合は、バッテリーパックを先に装着します。

■複数台を充電する

マルチチャージャ(OC-OO7)を使って、複数台を充電します。 ①充電器の背面にある DC ジャックへ AC アダプタの DC プラグを差込みます。 AC アダプタに AC コードを接続し、AC コードのプラグをコンセントに接続します。



接続後、充電器の前面にある POWER LED が点灯していることを確認してください。



②本製品またはバッテリーパックを充電器に装着します。





バッテリーパックは、端子側を下にして製品型番(BP-001)などが印刷されている面を手前にして装着します。バッテリーパックの端子部を、充電器の充電端子に接触させ、カチッと音がするまで押して爪に引っ掛けます。

本製品とバッテリーパックを同時に充電する場合は、バッテリーパックを先に装着します。



マルチチャージャ(QC-007)で本体を充電する場合、ハンドストラップは本体正面右 側に装着してください。

1-2-5 電池の残量表示とアラーム

参考

この項では、「乾電池」と「バッテリーパック」の両方を指して「電池」と表記してい ます。

■電池の残量

電池の残量が少なくなると操作が制限され、その後、電源が OFF になります。

次の方法でバッテリー残量を確認します。

システムメニューで [6:メンテナンス] - [1:電池残量] を選択します。





乾電池の場合

バッテリーパックの場合

●電池残量が少ない場合の制限

システムメニューの一部の操作では、電池残量が規定値以下(操作により異なる)になると、次の画 面が表示され操作が制限されます。



本マニュアルでは、制限対象の操作には 😡 が表示されています。

●電池切れアラーム

電池が切れると下記の画面とアラームで知らせ、約5秒後に強制的に電源が OFF になります。



■バックアップ用電池の充電

本製品には、メモリと内蔵時計をバックアップするためのバックアップ用電池が内蔵されています。 次の方法で、バックアップ用電池を充電します。

①満充電された乾電池またはバッテリーパックを用意します。

②本製品に乾電池またはバッテリーパックを装着し、【PW】キーを1秒以上押して電源をONすると、 バックアップ用電池への充電が開始されます。一度、電源をONした後は、電源を切ってください。 バックアップ用電池が完全に消耗していた場合、充電には最低2日間かかります。その間、乾電池 またはバッテリーパックをはずさないでください。

1-2-6 メモリのバックアップ

本製品は、ファイル保存領域としてFドライブ(不揮発性)とSドライブ(揮発性)の2つのドライ ブを持っています。パソコンからダウンロードしたアプリケーションソフトはFドライブに保存され ますので、バッテリーが消耗してもデータの消失はありません(「2-1-1 データについて」-「■ド ライブの構成」(P.<u>56</u>)参照)。

バックアップは、乾電池またはバッテリーパックとバックアップ用電池で行われます。

●乾電池またはバッテリーパックによるメモリバックアップ

使用バッテリー	乾電池またはバッテリーパック
用途	本製品の動作
バッテリーパック 充電時間	専用充電器を使用し、本体充電・バッテリーパック単体充電共に約 2.5 時間。
バックアップ期間	満充電の乾電池またはバッテリーパックを装着した場合のデータ保存期間は、 以下の通りです。 ・S ドライブのデータおよびレジューム情報:約7日

使用上の注意	動作中に乾電池またはバッテリーパックを取外した場合や、システムメニュー
	のメモリバックアップ機能が無効になっている場合は、Sドライブのデータ、お
	よびレジューム情報が消失します。一時保存する場合は、必ずメモリバックア
	ップ機能を有効にして、【PW】キーを押して電源を OFF にしてからバッテリ
	ーパックを取外してください。レジューム機能については「3-3-3 電源管理」
	の「メモリバックアップ:S ドライブのバックアップ」(P. <u>90</u>)を参照してく
	ださい。
	本製品を使用しない時、乾電池またはバッテリーパックをはずす(バックアッ
	プ用電池によるメモリバックアップを活用する)ような運用を毎日繰返すと、
	約半年でバックアップ期間が極端に短くなります。この場合、バックアップ用
	電池の交換(有償)が必要となりますので、交換時以外は常に乾電池またはバ
	ッテリーパックを装着しておくことをお奨めします。ただし、消耗している乾
	電池の場合は、速やかに新品電池に交換してください。消耗している乾電池は
	液漏れが発生することがあります。

●バックアップ用電池によるメモリバックアップ

使用バッテリー	バックアップ用電池
用途	本製品内蔵の時計データを保持します。また、乾電池またはバッテリーパック 交換時等、ある一定期間内のみSドライブデータを保存します。 レジューム機能を有効にしている場合は、レジューム情報を保存します。
充電時間	満充電のバッテリーパックを装着してから約2日。
バックアップ期間	 通常終了*1後にバッテリーを取外した場合のデータ保存期間は以下の通りです。 ・Sドライブのデータおよびレジューム情報(レジューム機能有効時):約10時間 ・内蔵時計のデータ:約6ヶ月 長期保管の設定*2による終了をした場合のデータ保存期間は以下の通りです。 ・内蔵時計のデータ:約1年(乾電池またはバッテリーパックの有無を問わず)
使用上の注意	端末の長期保管の詳細は「1-2-7 長期保管する場合」(P. <u>44</u>)を参照してくだ さい。 バックアップ用電池の消耗により消失したデータは復元できません。一時保存 以外のデータはFドライブに保存するようにしてください。

※1 通常終了:【PW】キー押下後に乾電池またはバッテリーパックを取外す終了方法

※2 長期保管の設定による終了:システムメニューから長期保管を選択する終了方法

1-2-7 長期保管する場合

■本製品の長期保管

本製品を長期間(6ヶ月以上)使用しない場合、システムメニューで長期保管の設定をすることをお奨めします。

長期保管を設定するとすぐに電源が切れます。

長期保管を設定すると S ドライブのデータとレジューム情報は消失しますが、内蔵時計のデータは保 持し続けますので、バックアップ電池の消耗を抑えることができます。

長期保管の設定方法については「3-8-6 長期保管:長期間使用しない時の設定」(P. <u>137</u>)を参照して ください。

■バッテリーパックの長期保管

長期間バッテリーを使用しない場合は、本製品を上記の長期保管設定にしてからバッテリーパックを 取外し、50%程度の充電状態で涼しい場所に保管することをお奨めします。満充電、および高温環境下 での保管はバッテリーパックの寿命を縮めることになります。

■バックアップが行われない場合の表示

以下の場合、バックアップは行われません。

- ・使用中に乾電池またはバッテリーパックをはずした場合
- ・落下や衝撃などで電源の瞬断が発生した場合
- ・長期保管モードに設定した場合
- ・バックアップ用電池が消耗してバックアップができなかった場合
- ・システムメニューのメモリバックアップ機能が無効の場合

次回起動時に次の画面が表示されます。

・システムメニューのレジューム機能が無効の場合

 下記状態の何れかに 該当した為、Sト・ライフ・ を初期化しました
 ・お買上時の初回起動
 ・長期保管 モート・解除
 ・パ・ックアッフ・電池の消耗
 ・動作中の電池外れ
 ENT:確認

・システムメニューのレジューム機能が有効の場合

レシ^{*} ューム起動失敗 下記状態の何れかに 該当した為、 Sドライブ を初期化しました ・長期保管 モート^{*} 解除 ・バックアップ電池の消耗 ・動作中の電池外れ ENT:確認

残り容量が少ない単三形アルカリ乾電池を本体に装着したままにしておくと、極めて短 期間で液漏れすることがあります。

数日以上ご使用にならない場合や乾電池が消耗している時は、必ず乾電池を取外してく 注意 ださい。

> システムメニューのメモリバックアップ機能が無効の場合は、起動時に上記画面は表示 されません。

1-2 本体の使い方

1-3 通信の種類

本製品は、入力したデータをパソコンに送信したり、パソコンからデータを受信したりすることができます。

■赤外線(IrDA)通信

赤外線(IrDA)を使って本製品同士の通信、USB 通信ユニットまたは LAN 通信ユニット経由でパソコン と通信することができます。

●本体間通信

本製品同士でファイル転送ができます。一方の赤外線通信ポートと他方の赤外線通信ポートを直線上 に並べて通信します。

赤外線通信ポート同士の距離は、0~15cm以内としてください。

詳細は、「3-5 ファイル:ファイルの操作(実行・送信・削除など)を行う」(P. <u>101</u>)を参照してく ださい。



●USB 通信ユニットによる通信

USB 通信ユニット(IU-004)または USB 通信/充電ユニット(IU-004C)を経由して、パソコンとの間で ファイルの送受信ができます。

この通信には、別売の IU-004 または IU-004C、および転送ユーティリティ BluePorter-V が必要です。 詳細は、「2-3 通信の方法」(P. <u>59</u>)を参照してください。



●LAN 通信ユニットによる通信

LAN 通信/充電ユニット(IU-004CL)を経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。 この通信には、別売の IU-004CL、および LAN 対応転送ユーティリティ BluePorter-L が必要です。 詳細は、BluePorter-L のヘルプマニュアルを参照してください。



■Bluetooth 通信

Bluetooth通信には、次の設定が必要です。

項目	説明	参照ページ
端末 ID	識別用の ID を設定します。	「3-6 端末 ID:端
	BluePorter-V ではこの ID を使って端末を識 別します。	末識別用 ID を設 定」(P. <u>108</u>)
Bluetooth の登録	Bluetoothの通信に必要な接続先の登録やセ	^г 3-7-3
	キュリティなどの設定をします。	Bluetooth :
		Bluetooth の登録
		設定」(P. <u>115</u>)

●Bluetooth 本体間通信





詳細は、「3-5 ファイル:ファイルの実行・送信・削除など」(P.<u>101</u>) および「3-4 受信: Bluetooth・赤外線通信でファイルを受信」(P.<u>96</u>) を参照してください。

●Bluetooth 通信

パソコンの USB ポートに Bluetooth USB アダプタを接続すると、本製品との間でファイルの送受信が できます。

この通信には、別売の転送ユーティリティ BluePorter-V が必要です。





・本製品からパソコンにファイルを送信する場合 「3-5 ファイル:ファイルの実行・送信・削除など」(P.<u>101</u>)

・本製品がパソコンからファイルを受信する場合
 「3-4 受信:Bluetooth・赤外線通信でファイルを受信」(P.<u>96</u>)

1-4 基本的な使い方

1-4-1 電源の ON/OFF

【PW】キーを1秒以上押すと、電源がON/OFF します。

アプリケーションソフトの自動実行が設定されている場合は、設定されているアプリケーションソフトがスタートします(「3-3-1 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行」(P.<u>87</u>)参照)。



システムメニューを起動する場合は、読取りキーを押しながら【PW】キーを1秒以上 押します。





起動時の状態は、レジューム機能の設定により変わります。詳しくは「3-3-3 電源管理:電源に関する各種設定」(P.<u>90</u>)を参照してください。

1-4-2 バーコードの読取りかた

■読取りかた

バーコードを読取る時は、背面の読取り口をバーコードに向け、読取りキーを押します。





読取り口からはレーザ光が照射されます。のぞき込んだり、目にあてたりしないでくだ さい。

1-4-3 使用時に役立つ機能

■バックライトの点灯

【F4】キーを押すごとに、バックライトが点灯/消灯します。 電池残量が規定値以下の時は、バックライトは点灯しません。

■液晶画面の設定

画面のコントラストやバックライトの輝度を調整することができます。 システムメニューで [5:デバイス] – [4:画面] を選択して設定します。

■ブザー音量の調整

ブザーの音量、キークリック音などを調整することができます。 システムメニューで [5:デバイス] – [5:音/バイブ] を選択して設定します。

 ・詳しい設定方法は、「3-7-5 音/バイブ:音量、LED、バイブレータの設定」(P.<u>123</u>)
 を参照してください。

■バッテリー残量の確認

システムメニューで [6:メンテナンス] – [1:電池残量] を選択すると、バッテリーの残量が表示されます。

参照

詳しい設定方法は、「3-8-1 電池残量:乾電池/バッテリーパック残量の確認」(P.<u>128</u>) を参照してください。

■レジューム機能(電源 OFF 時の状態保持)

レジューム機能を有効にすると、電源を OFF にした時の状態が保存され、次回起動時にその続きから 作業を継続することができます。

システムメニューで[1:システム]-[3:電源管理]-[2:レジューム]を選択すると、電源 ON 時の 動作を選択することができます。

●レジューム機能による動作

レジューム機能有効	【PW】キーを押して本製品の電源を OFF にした後、次に【PW】キーで起動す ると、電源 OFF の直前に実行されていた処理から動作を再開します。
レジューム機能無効	【PW】キーを押して本製品の電源を OFF にした後、次に【PW】キーで起動す ると、最初の処理から実行されます。



詳しい設定方法は、「3-3-3 電源管理:電源に関する各種設定」(P.<u>90</u>)を参照してく ださい。

- ・動作中にバッテリーをはずすと、次回起動時は、レジューム機能の有効、無効に関係 なく最初からプログラムが実行されます。
- 注意
 ・バックアップ用電池が消耗した場合、レジューム機能の有効、無効に関係なく最初か らプログラムが実行されます。バックアップ用電池の充電については「1-2-6 メモ リのバックアップ」(P.42)を参照してください。

■オートウェイクアップ(設定した時間に電源 ON)

オートウェイクアップ機能を設定すると、あらかじめ設定したスケジュールに従って、本製品を自動 的に起動することができます。

オートウェイクアップ機能の設定は、システムメニューで[1:システム] – [3:電源管理] – [3:オ ートウェイクアップ] を選択します。



詳しい設定方法は、「3-3-3 電源管理」-「オートウェイクアップ:決められた時間に 起動」(P.<u>92</u>)を参照してください。

■オートパワーオフ(自動的に電源 OFF)

一定時間操作されなかった場合、自動的に電源を OFF にします。

システムメニューで [1:システム] - [3:電源管理] - [4:オートパワーオフ] を選択すると、電源 OFF までの時間などを設定することができます。



詳しい設定方法は、「3-3-3 電源管理」-「オートパワーオフ:自動的に電源 OFF」 (P.<u>93</u>)を参照してください。

1-5 お手入れのしかた

読取り口

読取り口のフィルタが汚れていると、バーコードを正しく読取れない場合があります。

・電極

バッテリーの使用時間が短くなる、起動しにくくなる、突然電源が OFF になる等の症状が見られる 場合、バッテリーの劣化以外に、電極の汚れによる接触不良が原因となっていることがあります。 汚れが原因の場合、バッテリー側と本体側の電極を清掃することで症状が改善します。

●清掃方法

清潔で乾いた柔らかい布、綿棒等で、読取り口のフィルタや電極の汚れを拭き取ります。汚れた布や 指、固い物では決してこすらないでください。また強く拭くと傷がついたり、特に本体側の電極は変 形したりする恐れがありますので、軽く拭くように注意してください。







2-1 ソフトウェアについて

本製品のソフトウェアは、次の2種類で構成されています。

	本製品の基本動作を制御するプログラムです。
システムプログラム	パソコンの OS(基本ソフトウェア)に相当するもので、あらかじめ本製品に 搭載されています。基本的な動作パラメータの設定や各種確認作業を行う「シ ステムメニュー」はシステムプログラムの一部です。
	ユーザの業務処理に使用するプログラムです。
アプリケーション	バーコードの読取や、パソコンへのデータ転送などは、主にこのプログラムを
Y J F	使用します。「2-2」アフリケーションソフトの開発」(P. <u>58</u>)の開発環境を 用いてユーザ様が作成する必要があります。

2-1-1 データについて

■ドライブの構成

本製品にはデータを格納する領域として、FドライブとSドライブの2つのドライブがあります。 ファイルを受信する時は、まずSドライブで受信し、その後Fドライブへ移動して格納されます。

ドライブ	データ保持	用途	最大保存数
Fドライブ	不揮発性メモリ バックアップ用電池が消耗 した後も、ドライブのデータ は保持されます。	アプリケーションソフト、データベ ースマスターファイル、データファ イル等、全てのファイルを格納する ための領域として使用します。	64 ファイル
Sドライブ	揮発性メモリ 動作中に電池またはバッテ リーパックが突然はずされ たり、バックアップ用電池が 消耗したりすると、ドライブ のデータは消失します。	アプリケーションソフトの動作中 に一時的なファイル (テンポラリフ ァイル)を格納するための領域とし て使用します。	64 ファイル



・ファイルの受信と格納のために、S ドライブ、F ドライブともに充分な空き領域があることをご確認ください。

・受信時にSドライブに同名のファイルがある場合は、既にあるファイルが消去されます。

■ファイル名について

本製品で使用できるファイル名には、次の制限があります。

ファイル名の長さ	拡張子を含め 31 バイト以内	
使用可能文字	次の文字を任意に組合せて使用可能	
	・アルファベット(A~Z)	
	·数字(0~9)	
	・一部の記号(!#%&'()@^_{`.)	
	・半角スペース	
	・SHIFT JIS の全角文字	
その他の制限事項	ファイル名の先頭にスペースと「.」(ピリオド)は使用不可	

■拡張子について

本製品は、次の拡張子でファイル種別を認識しています。

ſ.OUTj	アプリケーションソフト
^г .BMP」	画像(ビットマップ)
	本製品で表示できるビットマップファイルにはフォーマッ
	トの制限があります(「3-5 ファイル:ファイルの実行・
	送信・削除など」(P. <u>101</u>)参照)。

■システムやアプリケーションソフトが作成するファイル

本製品のシステムプログラムやアプリケーションソフトの一部は、テンポラリファイルや設定保存用 のファイルを作成します。ファイル数が多過ぎる、ドライブに空き容量がない等の理由でこれらのフ ァイルが作成できない時、各プログラムは正常に動作できなくなります。

システムプログラムは、システムメニューの設定値を保存するために F ドライブにレジストリファイルを作成します。4 つのファイルが作成されますが、隠しファイルとなっておりシステムメニューには表示されません。



レジストリに関しては「4-5 レジストリ」(P.162)を参照してください。

2-2 アプリケーションソフトの開発

アプリケーションソフトを使用するためには、開発キットを使ってパソコン上でアプリケーションソ フトを開発します。開発したソフトは、本製品に転送します。

■ファイル転送環境

作成したアプリケーションソフトを本製品にインストールするためには、赤外線通信または Bluet ooth 通信のいずれかのファイル転送環境を構築する必要があります。

- 赤外線通信(IrDA)の場合:「■赤外線通信(IrDA)システム構成」(P. 21)参照
- Bluetooth 通信の場合:「■Bluetooth 通信システム構成」(P. 22)参照

■開発ツール

次の開発ツールが用意されています。

名称	型番	備考
アプリケーション開発キット	SDK-001	C 言語でアプリケーションソフトを開発するための コンパイラです。
		USB タイプのライセンスキーが付属しています。
PET-100 ライブラリ	LIB-004	C 言語でアプリケーションソフトを開発するための 専用ライブラリです。



アプリケーションソフト開発に関する詳細は、各製品をご覧ください。

通信の方法 -3

本製品は、入力したデータをパソコンに送信したり、パソコンからデータを受信したりすることがで きます。また、開発したアプリケーションソフトを本製品で実行するためには、アプリケーションソ フトを本製品に転送する必要があります。

パソコンとの接続には、次の3つの方法があります。必要に応じて通信環境を整えてください。

■赤外線(IrDA)通信

●USB 通信ユニットによる通信

USB 通信ユニット (IU-004) または USB 通信/充電ユニット (IU-004C) を経由して、パソコンとの間で ファイルの送受信ができます。

この通信には、別売の IU-004 または IU-004C、および転送ユーティリティ BluePorter-V が必要です。



●LAN 通信ユニットによる通信

LAN 通信/充電ユニット(IU-004CL)を経由して、パソコンとの間でファイルの送受信ができます。 この通信には、別売の IU-0040L、および LAN 対応転送ユーティリティ BluePorter-L が必要です。 詳細は、BluePorter-Lのヘルプマニュアルを参照してください。



LANケーブルで接続

■Bluetooth 通信

●Bluetooth 通信

パソコンの USB ポートに Bluetooth USB アダプタを接続すると、本製品との間でファイルの送受信が できます。

この通信には、別売の転送ユーティリティ BluePorter-V が必要です。



2-4 通信環境の設定

2-4-1 赤外線 (IrDA) 通信環境の設定

赤外線通信でファイルを転送する場合は、次の別売機器、ソフトが必要になります。

- ・USB 通信ユニット (IU-004) または USB 通信/充電ユニット (IU-004C)
- ・LAN 通信/充電ユニット (IU-004CL)
- ・USB ドライバソフト(本製品マニュアル CD-ROM に同梱)
- ・転送ユーティリティソフト BluePorter-V
- ・LAN対応転送ユーティリティ BluePorter-L



本マニュアルの説明は、Windows XP の例です。他のバージョンでは、画面が異なる ことがあります。



弊社製コードレススキャナセット WL7-USB をお使いのお客様で、WL7-USB 専用ソ フト「WL7-KEY」をお使いの場合、COM ポートがオープンできないことがあります。 WL7-KEY が Ver 1.02 以前の場合、COM ポートが占有されてしまうためオープンで きません。

この場合は弊社営業までご連絡ください。



LAN 通信/充電ユニットを使用した通信環境については、別売の BluePorter-L のヘル プマニュアルを参照してください。 USB 通信ユニットとホストコンピュータを USB ケーブルで接続します。

パソコンには、次の周辺ソフトウェアをインストールして動作可能な状態にします。

- ・転送ユーティリティソフト BluePorter-V
- IU-004/IU-004C のドライバソフト

インストールと設定の手順は、各製品のユーザーズマニュアルを参照してください。



2-4-2 Bluetooth 通信環境の設定

Bluetooth 通信でファイル転送をする場合は、次の別売機器、ソフトが必要になります。

- ・転送ユーティリティ BluePorter-V (WLF-003)
- ・Bluetooth USB アダプタ

ソフトウェアのインストール方法は、転送ユーティリティ BluePorter-Vのマニュアルを参照してください。



弊社製コードレススキャナセット WL7-USB をお使いのお客様で、WL7-USB 専用ソ フト「WL7-KEY」をお使いの場合、COM ポートがオープンできないことがあります。 WL7-KEY が Ver 1.02 以前の場合、COM ポートが占有されてしまうためオープンで きません。

この場合は弊社営業までご連絡ください。

2-5 アプリケーションソフトのダウンロード方法

作成したアプリケーションソフトは、次の手順で本製品にダウンロードします。 アプリケーションソフトのダウンロードには、次の3つの方法があります。 (1USB 通信ユニット (IU-004/IU-004C) を使用した赤外線通信によるダウンロード (2Bluetooth USB アダプタを使用した Bluetooth 通信によるダウンロード (3LAN 通信ユニット (IU-004CL) を使用した赤外線通信によるダウンロード

本マニュアルでは、USB 通信ユニット(①)と Bluetooth 通信(②)を使用したダウンロード方法を説 明します。

③の手順については、BluePorter-Lのマニュアルを参照してください。

2-5-1 USB 通信ユニットによるダウンロード

■機器の準備

次の機器、ソフトを用意します。

- 本製品
- ・バッテリーパックまたは乾電池
- ・転送ユーティリティ (BluePorter-V)
- ・USB 通信ユニット (IU-004/IU-004C)

■使用前の準備

①本製品に乾電池またはバッテリーパックを装着します。

②転送ユーティリティ BluePorter-V をパソコンにインストールします。

③USB 通信ユニットの USB ドライバをパソコンにインストールします。

※USB ドライバのインストール方法は、「2-4-1 赤外線(IrDA)通信環境の設定」(P.<u>61</u>)を参照し てください。

■設定ウィザードが起動する場合

本製品を購入後、最初の起動時には、パソコンとの Bluetooth 通信に最低限必要な設定をするための 設定ウィザードが実行されます。

このウィザードは赤外線通信には、必要ありません。

ウィザード画面で[いいえ]を選択すると、システムメニューを起動します。

Bluetooth 通信を行う場合は、「3-8-7 ウィザード: 簡単に通信設定ができる画面の起動」(P. <u>138</u>)を 参照してウィザードを起動して設定してください。

■転送ユーティリティ BluePorter-V の起動

転送ユーティリティ BluePorter-V を起動します。

[スタート] メニューをクリックして [プログラム] の [Welcat BluePorter-V] をクリックします。

	1	プログラム(型)	, 🖻	アクセサリ Microsoft Word	ł		
Inal	3	最近使ったファイル(D)	• 🛛	Microsoft Excel			
ssio	2	股定⑤	, <mark>6</mark>	Welcat BluePorter-V	•	🚰 Welcat BluePorter-V	
Profe	P	検索©)	۰T				
XP	?	ヘルプとサポート(円)					
dows		ファイル名を指定して実行(R)					
Win	0	シャットダウン(山)					
2	スタート]					

起動すると、タスクトレイにアイコンが表示されます。

表示された「BluePorter-V」のアイコンを右クリックして、表示されるメニューの[通信設定]をク リックします。



■通信設定

使用する COM ポートと、送信フォルダ・受信フォルダを設定します。

①タスクトレイに表示されているアイコンを右クリックして、表示されるメニューの [通信設定] を クリックします。



②デバイスマネージャで確認した COM ポート番号を [使用する COM ポート番号] に設定します。 [受信フォルダ] と [送信フォルダ] には、アプリケーションソフトのファイルが存在するフォル ダを指定します。

下図は、「C:¥Welcat¥test_apl]フォルダにアプリケーションソフトが保存されている場合の例です。



③ [OK] ボタンを押してウィンドウを閉じます。 次のような画面が出た場合は [はい] をクリックしてください。



■ファイルのダウンロード

①BluePorter-Vの送信フォルダとして設定したフォルダ(上の例では「C:¥Welcat¥test_apl])に、ア プリケーションソフトの実行ファイルをコピーします。

C#Welcat¥test_apl		
ファイル(E) 編集(E) 表示	₹(V) お気に入り(A) ツール(D) ^	ルプ(H) 🥂
🔇 戻る • 🕥 - 🏄	🔎 検索 🥟 フォルダ 🛄・	
アドレス(D) 🛅 C:¥Welcat¥te	st_apl	💌 🛃 移動
ファイルとフォルダのタスク グ 新しいフォルダを作成す	▲ る 関す	T Bample2OUT DUT 777 JL BI KB
その他 つ Welcat	*	
2 個のオブジェクト		179 KB 🔡 דר בארב ארב ארב ארב ארב ארב ארב ארב ארב א

第2章 ソフトウェア

②次に PET-100-M のシステムメニューを起動します。 システムメニューで[2:受信] - [2: IrDA] - [1:ファイルリストから選択]を選択します。



③本製品は自動的に BluePorter-V にログインし、ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。

ダウンロードするファイル名をチェックします。



④本製品をUSB 通信ユニットにセットします。

【F1】キーを押すと[受信を開始しますか?]画面が表示されます。[はい]を選択して【ENT】キーを押すとダウンロードが開始され、数秒から数分で完了します。

ただし、ファイルサイズが大きい場合は、ダウンロードに時間がかかることがあります。

2-5-2 Bluetooth USB アダプタによるダウンロード

■機器の準備

次の機器、ソフトを用意します。

- ・本製品
- ・バッテリーパックまたは乾電池
- ・転送ユーティリティ (BluePorter-V)
- ・Bluetooth USB アダプタ

■使用前の準備

①本製品に乾電池またはバッテリーパックを装着します。 ②転送ユーティリティ BluePorter-V をパソコンにインストールします。

③Bluetooth USB アダプタのドライバをパソコンにインストールします。

※インストール方法は各ソフトのマニュアルを参照してください。

④パソコンに USB アダプタを接続します。

タスクトレイに BluetoothManager のアイコンが表示されるので、右クリックして BluetoothManager を ON にします。アイコンが赤から白に変わります。

■設定ウィザードの実行

本製品を購入後、最初の起動時には、パソコンとの Bluetooth 通信に最低限必要な設定をするための 設定ウィザードが実行されます。

① [はい] を選択してウィザードを実行します。





ウィザードで設定する項目は、システムメニューで個別に設定できます。また、必要な時に、システムメニューから設定ウィザードを実行することもできます。 ウィザードの設定は、「3-1-3 初めてシステムメニューを起動する時」(P.<u>79</u>)を参照してください。

②リモート Bluetooth デバイスと端末 ID を設定するウィザードが実行されます。

■端末の設定



システムメニューの操作方法は、「第3章 システムメニュー」を参照してください。

①本製品の読取りキーを押しながら【PW】キーを1秒以上押します。システムメニューが起動します。

②接続するBluetoothデバイスを検索します。

システムメニューから[5:デバイス]-[3:Bluetcoth]-[2:リモートデバイス]-[2:デバイス検索] を選択します。



③検索が完了すると、周辺にある Bluetooth デバイスの一覧が表示されます。 検索が終了するまでの時間は、環境によりますが数十秒かかることがあります。



④事前にパソコンの Bluetooth が使用可能になっている場合は、パソコンのデバイス名が表示されま す。検索されたデバイスの一覧からパソコンのデバイス名を選択して【ENT】キーを押します(デバ イス名が表示されない場合は、もう一度デバイス検索を行ってください)。

リモート 1~7 まで登録できます。例として、リモート 1 に登録します。リモート 1 が選択された状態で【ENT】キーを押します。

<	<u>+⊞_</u> ⊵=				
	リモート1				
TEST	リモート2				
PET-1	リモート3				
	リモート4				
	リモート5				
	リモート6				
	リモート7				
 [F]] 情報					

これで接続先の登録は完了です。

■転送ユーティリティ BluePorter-V の起動

転送ユーティリティ BluePorter-V を起動します。

[スタート] メニューをクリックして [プログラム] の [Welcat BluePorter-V] をクリックします。

	1	プログラム(型)	,	アクセサリ Microsoft Word	•		
Inal	3	最近使ったファイル(D)	•	Microsoft Excel			
essio	1	股定⑤	, 🖻	Welcat BluePorter-V		Welcat BluePorter-V	
Prof	P	検索心	۰T				ļ
XP	0	ヘルプとサポート(<u>H</u>)					
swop		ファイル名を指定して実行(民)					
Win	0	シャットダウン(型					
æ.	スタート						

起動すると、タスクトレイにアイコンが表示されます。

表示されているアイコンを右クリックして、表示されるメニューから [通信設定] をクリックします。



■通信設定

使用する COM ポートと、送信フォルダ・受信フォルダを設定します。

①タスクトレイに表示されているアイコンを右クリックして、表示されるメニューの [通信設定] を クリックします。



②デバイスマネージャで確認した COM ポート番号を [使用する COM ポート番号] に設定します。 [受信フォルダ] と [送信フォルダ] には、アプリケーションソフトのファイルが存在するフォル ダを指定します。

下図は、「C:¥Welcat¥test_apl]フォルダにアプリケーションソフトが保存されている場合の例です。



③ [OK] ボタンを押してウィンドウを閉じます。 次のような画面が出た場合は [はい] をクリックしてください。

ポートオーフ	シ	×					
?	現在、通信ポート ポートをオーブンし	に在、通信ボートがをオーブンされていません。 ートをオーブンしますか?					
1	(Taturan)	いいえ(11)					
■ファイルのダウンロード

①BluePorter-Vの送信フォルダとして設定したフォルダ(上の例では「C:¥Welcat¥test_apl])に、ア プリケーションソフトの実行ファイルをコピーします。

C:¥Welcat¥test_apl				- 🗆 ×
ファイル(E) 編集(E) 計	表示(<u>V</u>) お気に入り(<u>A</u>)	ツール① ヘルプ(出)		
📀 戻る 🔹 🕥 🕤	🎾 検索 🌔 フォ	ナルダ 📰 -		
アドレス(D) 🛅 C:¥Welcati	étest_apl			🔹 🔁 移動
ファイルとフォルダのタス ジ 新しいフォルダを作成 動 このフォルダを Web (このフォルダを共有す	り * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	Sample1.OUT OUT 771/L 129 KB	sample2OUT OUT ファイル 51 KB	
その他	*			
🚞 Welcat	*			
個のオブジェクト			179 KB 💽 דא באל באל א 😼	l

②システムメニューで[2:受信]- [1:Bluetooth] - [1:ファイルリストから選択]を選択します。



③本製品は自動的に BluePorter-V にログインし、ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。

ダウンロードするファイル名をチェックします。

【F1】キーを押すと確認メッセージボックスが表示されます。カーソルを [はい] に合わせて 【ENT】 キーを押すと、ダウンロードが開始され、数秒から数分で完了します。

ただし、ファイルサイズが大きい場合は、ダウンロードに時間がかかることがあります。

< 77111121 >		
⊠samplel.OUT		
∟sample2.OUT		
【[+]]実行 [+2]メニュー	J	

2-6 アプリケーションソフトの実行方法

アプリケーション開発キットで作成したアプリケーションソフト(拡張子=OUT)は、本製品に受信す るだけでインストールが完了し、実行する準備が整います。

■ファイルリストから選択して実行

複数のアプリケーションソフトをインストール済みの場合、ファイル一覧から選択して実行すること ができます。

①システムメニューで[3:ファイル] - [アプリケーション]を選択します。



②実行したいアプリケーションソフトにフォーカスをあわせ、【F1】キーを押します。



③ポップアップしたメニューから、[実行]を選択して【ENT】キーを押します。 <ファイルの実行>画面が表示され、自動実行プログラムへの登録確認が表示されます。自動実行を する場合は [はい]、しない場合は [いいえ] を選択して【ENT】キーを押します。



アプリケーションソフトが起動します。

それぞれのアプリケーションソフトの使い方は、アプリケーションソフトの開発元やシステム管理者 がご用意された操作説明書等をご覧ください。アプリケーションソフトの終了方法も、アプリケーションソフトによって異なります。

■起動時に自動実行

本製品の起動時に、システムメニューを起動することなく自動的にアプリケーションソフトを実行す ることができます。

①システムメニューで[1:システム] – [1:自動実行]を選択します。



②インストール済みアプリケーションソフトの一覧から実行するファイル名を選択し、【ENT】キーを 押すと<システム設定>画面に戻ります。これで自動実行ファイルの登録が完了します。 次回、電源 ON すると、登録したアプリケーションソフトが起動します。 システムメニューを選択した時はシステムメニューが起動します。



注意

上記の設定をしても、「レジューム」の設定が「有効にする」になっている場合は、電 源 ON してもシステムメニューが表示されます。

レジューム機能が有効で、かつ自動実行をする場合は、最初の実行時だけはファイルリ ストからアプリケーションソフトを選択して実行してください。





3-1 システムメニューの使い方

システムメニューはシステムプログラムを構成する機能の一部として、本製品の環境設定やアプリケ ーションソフトのプラットフォームなど、様々な機能を提供します。お客様の使用環境に合わせた設 定をして頂くことで、より効率良く本製品をご使用頂けます。

3-1-1 操作キー

システムメニューは、下記のキーを使って操作します。

読取りキー	バーコードを読取ります。
【F1】/【F2】 <i>キー</i>	画面下部に[F1][F2]が表示された時、該当するキーを押すと、サブメニュ ーを表示したり、特殊機能を実行したりします。
【ENT】キー	操作を決定します。
【BS】 キー	入力した文字を1文字削除します。
矢印キー	メニューで選択項目(反転表示)を移動します。また、文字入力時には矢印方 向にカーソルを移動します。
【C】 +-	一つ前の状態に戻したり、入力した文字を消去したりします。
【SF】 キー	文字入力モードを切替えます。
【F4】 キー	バックライトを点灯/消灯します。



キーの配置については、「1-1-3 各部の名称と機能」−「■操作キーの働き」(P.<u>28</u>) を参照してください。

■キーの文字割当て一覧

+-	数字入力モード	英字入力モード
	1	ABC
	2	DEF
Зан	3	GHI
4 _{JKL}	4	JKL
(5 _{MNO})	5	MNO
(6 _{PQR}	6	PQR
7 _{STU}	7	STU
8.	8	VWX
(9 ₇₂	9	ΥZ
0_	0	□(スペース)
@ .)		\$-+/%:#@&



本書では、キー名称を【 】で表記しています。 (例)【1】キー、【F2】キー、【ENT】キー

3-1-2 システムメニューの起動

次の操作で、システムメニューを起動します。



システムメニューを起動する時は、乾電池またはバッテリーパックが正しく装着されて いることを確認してください。

- 電源が OFF の状態で、読取りキーを押しながら【PW】キーを1秒程度押し続けます。
 電源が ON になりシステムメニューが起動します。
- ② オープニング画面の表示後に、システムメニューが表示されます。

< ୬ステムメニュー >			
1: システム 2:受信 3:ファイル 4:端末ID	5:デパイス 6:メンテナンス 7:テスト		



自動実行プログラム(「3-3-1 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行(P.<u>87</u>) 参照)にアプリケーションソフトが選択されている場合は、読取りキーを押しながら 【PW】キーを押すと、システムメニューが起動します。

3-1-3 初めてシステムメニューを起動する時

ご購入後、初めて本製品を起動すると、「S ドライブを初期化しました」の画面が表示されます。その まま【ENT】キーを押すと、パソコンとの Bluet ooth 通信に最低限必要な設定をするための設定ウィザ ードが実行されます(次画面)。

ご購入後、最初の起動で「Sドライブを初期化しました」画面が必ず表示されますが、故障ではありません(「Sドライブを初期化しました」画面についは「1-2-7 長期保管する場合」-「■バックアップが行われない場合の表示」(P.45)を参照)。



- [はい]を選択すると、リモート Bluetooth デバイスと端末 IDを設定するウィザードが実行されます。
- [いいえ]を選択するとシステムメニューが起動します。

[いいえ]を選択して設定ウィザードをスキップするか、設定ウィザードを実行して最後まで設定を 完了すると、次回起動時から設定ウィザードは起動しなくなります。



設定ウィザード内で入力する各項目は、システムメニューで個別に設定することもでき ます。個別に設定する場合は「3-7-3 Bluetooth: Bluetoothの登録設定」(P.<u>115</u>) を参照してください。また、システムメニューから設定ウィザードを任意で実行するこ ともできます(「3-8-7 ウィザード:簡単に通信設定ができる画面の起動」(P.<u>138</u>) 参照)。

設定ウィザードでは、次の図の流れに沿って各項目を設定します。途中の選択により設定する項目が 異なります。



各設定内容と説明は「3-7-3 Bluetooth: Bluetooth の登録設定」(P.<u>115</u>)を参照し てください。



3-1-4 システムメニューの操作方法

システムメニューの基本的な操作方法について説明します。

■設定項目の選択



●項目を選ぶ

選択中の項目は反転表示されます。

各項目に該当する【0】~【9】キーを押すか、矢印キー(【▲】、【▼】)キーを使用して反転表示を移 動します。

●項目を決定する

【ENT】キーを押すと、選択中の項目を決定します。 決定後の動作は項目により異なります。

- 選択した機能を実行
- [はい] または [いいえ] の意思表示 (チェックボックス)
- 次のメニューを表示
- サブメニューを表示

●選択を中止する

【C】キーを押すと1つ前の操作に戻ります。

●画面の表示について

メニュー項目が1画面に収まらない場合は、画面右側に垂直スクロールバーが表示されます。また、 項目名が1行に収まらない場合、項目名の最後が「→」に変換されて表示されます。



■キーでデータを入力する

テンキーと〇キーを使って文字を入力します。

数字、英字(大/小)、記号が入力できます。

●文字入力モードを切替える

【SF】キーを押すと入力モードが切替わります。*1 数字入力モード: 数字と小数点が入力できます。 英字入力モード: 英字(大/小)や記号が入力できます。

●数字を入力する

【SF】キーを押して数字入力モード(カーソル:■(矩形))にします。 使えるキー:【0】~【9】キー、⊙キー

●英字を入力する

【SF】キーを押して英字入力モード(カーソル:__(下線))にします。 使えるキー:【1】~【9】キー

- 同じキーに割当てられている英字を続けて入力する場合は、【▶】キーを押してカーソルを移動 させてから、次の英字を入力します。
- 【▲】/【▲】キーを押すと、カーソル位置の英字が大文字⇔小文字に変換されます。^{**2}

●記号を入力する

【SF】キーを押して英字入力モード(カーソル:__(下線))にします。 使えるキー:【0】キー、①キー

- 同じキーに割当てられている記号を続けて入力する場合は、【▶】キーを押してカーソルを移動 させてから、次の記号を入力します。
- カーソルが入力したデータの末尾にある時【▶】キーを押すと、スペースがカーソルの右側に 挿入されます。^{※2}

●入力したデータを確定する

【ENT】 キーを押します。

●文字を削除する※3

- 【BS】キーを押すとカーソル位置の文字を1文字削除します。
- 【C】キーを押すと全ての文字を消去します。

●入力を中止する

- 文字を削除できない項目^{***}では、【C】キーを押すと直ちに入力を中止します。
- 文字を削除できる項目では、入力した文字を全て削除した後で【C】キーを押します。

●その他

入力文字数が登録可能な文字数を超えた場合、カーソルは先頭に戻ります。

*1 入力可能な文字種が制限されている項目(例:端末 ID は数字のみ)は、入力モードを切替えられません。

*2 項目により入力できる文字数が制限される場合があります。

*3 入力フォーマットが固定の項目(例:ローカル BD アドレス)では文字を削除できません。 本マニュアルでは入力フォーマット固定の項目に右記の削除禁止アイコンをつけて表記して います。

■その他の操作

一つ前の状態に戻る	[C] +-
チェックボックス <	項目を選択して、【ENT】キーを押すごとに選択/非選択(はい/ いいえ)が切替わります。
● <u>信初にまま</u> 周波数[0580]Hz オン時間[00000]ミリ秒 オフ時間[00000]ミリ秒 回数[00]	チェックボックスは同時に複数項目を選択する場合にも使用され ます。
ラジオボタン	小さな円状のボタン(◎)の中が塗りつぶされている項目が、現在 有効であることを表しています。
<	ラジオボタンは複数の項目から1つだけを選択する場合に使用さ れます。

メッセージボックス < パスワードの解除 > 	ボックス内の下部に [はい] や [いいえ] などボタンが 2 つ表示 されている場合は、【1】または【2】キーを押すか、矢印(【▲】、 【▲】、【◀】、【▶】)キーを使用してボタンを選択(反転表示) し、【ENT】キーで決定します。 【C】キーを押すと右側のボタンが選択されたことになります。
レベルメーター < 画面コントラスト > 「「「「「「「」」」「F6(高) 「」」「」」「」」、「ル:4 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	設定値を段階ごとに調節します。 【▲】/【▼】キーでスライダーを上下させ、【ENT】キーでレベ ル値を決定します。
サブメニュー/ファンクション の呼出し ^{< /(-コード・テスト >} ³⁴³⁹³⁰³¹³⁷³⁵³⁵³¹³²⁴¹ ³⁸³³³³	画面下部に [F1] または [F2] が表示されている時に、該当する キーを押すとサブメニューを表示したり、ファンクション (特殊機 能)を実行したりします。
バックライトの点灯/消灯	【F4】キーを押すごとにバックライトが点灯/消灯します。ただし 電池残量が規定値以下の場合、バックライトは点灯しません。
操作時のインジケータ変更	操作時に作動するインジケータ(ブザー/バイブレータ/LED)は、 お客様独自の設定に変更することが可能です。変更方法については 「3-7-5 音/バイブ:音量・LED・バイブレータの設定」(P. <u>123</u>) をご覧ください。 この設定を変更することで、お客様独自のインジケータが簡単に作 成できます。 なお、一部インジケータが適用されない操作があります。

■バーコードでデータを入力する

各種設定や文字などをバーコードで入力することができます。 読取りキーを押してレーザを照射させ、バーコードをスキャンします。 データ入力において読取り可能なバーコードは次の通りです。 NW-7、CODE39、JAN13/8、UPC-A/E、インダストリアル 2of5、ITF、CODE93、CODE128、GS1 DataBar (RSS)

レーザの照射時間やスキャン時の動作等はトリガモードで設定します。なお、バーコードテストはト リガモードの影響を受けません。

3-2 システムメニュー一覧

システムメニューは、機能ごとに分類された階層構造になっています。



システムメニューの出荷時設定については、「付録-1 出荷時設定一覧」(P.<u>176</u>)を参 照してください。

参照

3-3 システム:便利な機能

本製品をより快適にご使用頂くための各種機能を設定します。

BHCP 機能を使用すると、各システム設定を自動的に登録することも可能です(パスワードの設定は除く)。



BHCP 機能を使用するには、別途、LAN 通信/充電ユニット(IU-004CL)と LAN 対応 転送ユーティリティ「BluePorter-L」(WLF-004)が必要です。

「3-8-8 BHCP:システム設定とファイルの起動時自動ダウンロード」(P.138)参照

操作手順

< システム設定 >

1:自動実行

2 : 時計 3 : 電源管理

4: パ スワート*

[システムメニュー] → [1:システム]

設定する項目を選択します。

- ・自動実行:アプリケーションソフトの自動実行(P.87)
- ・時計:時刻の設定・確認(P.88)
- ・電源管理:電源に関する各種設定(P.90)
- ・パスワード:パスワードの設定・解除(P.<u>94</u>)

3-3-1 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行

電源 ON 時に起動するアプリケーションソフトを登録します。 出荷時設定では、システムメニューが起動します。

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [1:自動実行]

電源を ON した時に起動するアプリケーションソフトを選択します。



現在インストールされているプログラムの一覧が表示されるので、目的 のアプリケーションソフトを選択します。

【ENT】キーを押すとくシステム設定>画面に戻ります。これで自動実 行ファイルの登録が完了します。

次回、電源を ON すると、登録したアプリケーションソフトが起動します。

< 77イルの情報 > 77イル名 [SAMPLE1.0UT]] 種類[77イル]] ライブ ラリ[1.00] サイズ[00615834] パイト 更新日時 [2009/01/01] 00:00:00]	
L 種類[ファイル] ライブラリ[1.00] サイズ[00615834] パイト 更新日時 [2009/01/01] 00:00:00]	<pre>< ファイルの情報 > ファイル名 [SAMPLE1.OUT]</pre>
	L 種類[ファイル] ライブラリ[1.00] サイズ[00615834] バイト 更新日時 [2009/01/01] 00:00:00]

【F1】キーを押すと選択中のアプリケーションソフトに関する情報が表示されます。

【C】キーを押すと<自動実行>画面に戻ります。

3-3-2 時計:時刻の設定・確認

現在時刻の確認および時刻の設定をします。

手動による設定(マニュアル設定)のほか、USB 通信ユニットまたは Bluetooth を使ってパソコンの時刻に合わせること(サーバ設定)も可能です。

■現在の時刻

操作手順

[システムメニュー] → **[1:システム]** → **[2:時計]**

時刻をマニュアルで設定するかサーバで設定するかを選択します。



現在の時刻が表示されます。 設定する項目を選択します。

- ・マニュアル設定:マニュアルで時刻を設定
- ・サーバ設定:サーバから自動的に時刻を設定

■マニュアル設定:マニュアルで時刻を設定 💟

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [2:時計] → [1:マニュアル設定]

時刻を設定します。



矢印キーで設定する年月日にカーソルを移動して、時刻を入力します。

【ENT】キーを押すと時刻を確定、<現在の時刻>画面へ戻ります。 【C】キーを押すと設定を中止し、<現在の時刻>画面へ戻ります。

■サーバ設定:サーバから自動的に時刻を設定 💬

サーバ設定を行う際は、あらかじめ次のことを確認してください。

- パソコンの電源を入れます。
- パソコンで「BluePorter-V」(WLF-003:別売)や、「BluePorter-L」(WLF-004:別売)を使用し たアプリケーションソフトを起動します。
- Bluetoothを使用する場合は、本製品のデフォルトデバイス設定にパソコンの BD アドレス等を 設定します(「3-7-3 Bluetooth: Bluetoothの登録設定(P. <u>115</u>)参照)。

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [2:時計] → [2:サーバ設定]

パソコンの BluePorter-V または BluePorter-L を使用したアプリケーションソフトから時刻デー タを受信して設定します。

①受信のための通信手段を選択します。



受信方法として Bluetooth または IrDA(赤外線)を選択します。 BluePorter-V から時刻データを受信する場合には Bluetooth または IrDA を、BluePorter-L を使用したアプリケーションソフトから時刻デ ータを受信する場合には IrDA を選択してください。 IrDA を選択した場合は、本製品を USB 通信ユニットにセットしてくだ さい。

②時刻データの受信が完了すると、次の画面が表示されます。



【ENT】キーを押すと、<現在の時刻>画面へ戻ります。



受信に失敗した場合、左の画面が表示されます。 ・リトライ:再度サーバから時刻データを受信します。 ・キャンセル:設定を中止して<現在の時刻>画面へ戻ります。 失敗を繰返す場合は、システム管理者にお問合せください。

3-3-3 電源管理:電源に関する各種設定

オートパワーオフなど電源 ON/OFF に関わる各種の設定をします。

■メモリバックアップ:Sドライブのバックアップ

メモリバックアップ機能を有効にすると、電源 OFF 時にメモリ内容がバックアップされ、S ドライブの データが保存されます。また、レジューム機能を使用する場合は、メモリバックアップ機能を有効に しておく必要があります。

本製品を長期に保管する場合や、電源 OFF 時の電池消費量を抑えたい場合には、メモリバックアップ 機能を無効にします。

注意

この機能を無効にすると、レジューム機能も無効になります。

操作手順

```
[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [1:メモリバックアップ]
```

メモリバックアップ機能を有効にします。

< メモリーハ゜ックアッフ゜ > □ 有効にする [有効にする] をチェックします。

■レジューム機能:電源 OFF 時の状態を保持

レジューム機能を有効にすると、電源を OFF にした時の状態を保存し、次回起動時にその続きから作業を継続することができます。

レジューム機能の有無により、【PW】キーを押して電源 ON した時の動作は、次のようになります。

- レジューム機能有効:電源 OFF の直前に実行されていた処理から動作を再開します。
- レジューム機能無効:常に最初から処理が実行されます。



読取りキーを押しながら【PW】キーを押して電源 ON にすると、レジューム機能はキャンセルされて、システムメニューが起動します。

・動作中に乾電池またはバッテリーパックをはずした場合、レジュームは失敗します。
 レジューム機能の有効・無効に関係なく、処理が最初から実行されます。次に電源を
 ON した時、以下の画面が表示されます。

レジ [*] 1-ム起動失敗 下記状態の何れかに 該当した為、 Sト [*] ライフ [*] を初期化しました
 ・長期保管 モート[・]解除 ・ ハ[・] ックアッフ[・]電池の消耗 ・ 動作中の電池外れ
ENT:確認

注意

- ・バックアップ用電池が消耗した場合も同じように上記の画面が表示され、処理が最初から実行されます。バックアップ電池の充電については「1-2-5 電池の残量表示と アラーム」-「■バックアップ用電池の充電」(P.42)を参照してください。
- ・メモリバックアップが無効になっている時にレジューム機能を有効に設定しようとすると、以下の画面が表示されます。メモリバックアップを有効にしてから、再度この機能を有効にしてください。



操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [2:レジューム]

レジューム機能を有効にします。

< ۲-۲ آر >

□有効にする

[有効にする] をチェックします。

■オートウェイクアップ:決められた時間に起動

オートウェイクアップは、あらかじめ設定したスケジュールに従って本製品を自動的に起動させる機 能です。

オートウェイクアップ機能は、【PW】キーを使って電源を OFF した場合のみ有効です。 注意 電池交換をした直後やローバッテリーによって強制終了した後は、オートウェイクアッ プで起動しません。

●スケジュールの確認

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [3:オートウェイクアップ]

現在設定されている起動スケジュールが表示されます。

設定する項目を選択します。

マ 現在のスケジュール >
 毎週月曜日の
 07時30分に
 起動します。
 ・設定:スケジュールの設定
 ・解除:スケジュールの解除
 ・解除:スケジュールの解除
 ・

●設定:スケジュールの設定

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [3:オートウェイクアップ] → [1:設定]

オートウェイクアップのスケジュールを設定します。



スケジュールの発生間隔を選択します。

毎日(時刻指定)、毎週(曜日と時刻指定)、毎月(日にちと時刻指定) から選択できます。日にちは「01」~「31」で、時間は 24 時間形式で 設定します。設定が完了するとスケジュールの確認へ戻ります。

削除

24時間形式で時分(00:00~23:59)を入力します。

以上で設定は完了です。

【ENT】キーを押すとく現在のスケジュール>画面へ戻り、設定は完了 です。

●解除:スケジュールの解除

< スケジュールの設定 >

間 隔 [毎月] 日 付 [01] 時 間 [01:**◎**0]

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [3:オートウェイクアップ] → [2:解除]

設定されているオートウェイクアップスケジュールを解除します。



確認用ダイアログで[はい]を選択します。 設定されているスケジュールが消去されます。 [いいえ]を選択すると解除を中止します。

■オートパワーオフ:自動的に電源 OFF

オートパワーオフとは一定時間何も操作されなかった場合に、自動的に電源を OFF にする機能です。

操作手順

```
[システムメニュー] → [1:システム] → [3:電源管理] → [4:オートパワーオフ]
```

自動的に電源が OFF するまでの時間を設定します。

< オートパワーオフ時間 > [〕 600] 秒	設定可能な時間は 0060 秒~3600 秒です。 なお、0000 秒に設定するとオートパワーオフは無効になります。	
	【ENT】キーを押すと、設定は完了します。	
FT) ガ イダ ンス	【F1】キーを押すと、設定値に関するガイダンスが表示されます。	

3-3-4 パスワード:パスワードの設定・解除

システムメニューを不用意に起動させないためにパスワードを設定します。パスワードを設定すれば 管理者以外の第三者が設定内容を確認したり変更したりできないようになります。



パスワードが設定されると、システムメニュー起動時にパスワードチェ ックを実施します。パスワードが入力されない限り、システムメニュー は起動しません。



暗証番号は忘れないようにメモを取って保管してください。万一忘れてしまった場合 は、弊社営業までお問合せください。



レジューム機能が有効な時、システムメニュー表示中に【PW】キーを押して電源 OFF すると、再起動時はパスワードチェックなしにシステムメニューが起動します。

操作手順

[システムメニュー] → [1:システム] → [4:パスワード]

パスワードを設定するか解除するかを選択します。

< パ スワート*	>	
1:設定		
∠:脾际		

次の項目から選択します。

・設定

・解除

■設定:パスワードの設定

操作手順

[システムメニュー] → **[1:システム]** → **[4:パスワード]** → **[1:設定]**

入力後、【ENT】キーを押します。

① 新しいパスワードを入力します。



パスワードは4文字~30文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別 されます。

新しいパスワードを入力したら、【ENT】キーを押します。

② 確認のため、もう一度パスワードを入力します。

< パスワードの設定 > 新しいパスワード [abcd] 新しいパスワード(確認)

■解除:パスワードの解除

操作手順

[システムメニュー] → **[1:システム]** → **[4:パスワード]** → **[2:解除]**

パスワードを解除します。



[はい]を選択するとパスワードが解除され、設定されていたパスワードが消去されます。

[いいえ]を選択すると解除を中止します。



[システムメニュー] → [2:受信]

受信のための通信手段を選択します。

< デバイスの 種 類 > **I:Bluetooth** 2:IrDA 受信方法として Bluetooth または lrDA(赤外線)を選択します。

- · Bluetooth (P.<u>96</u>)
- ·IrDA(赤外線)(P.<u>98</u>)

3-4-1 Bluetooth: Bluetooth 通信でファイルを受信

受信の際は、あらかじめ次のことを確認してください。受信したファイルは全て F ドライブに保存されます。

●送信側がパソコンの場合

- パソコンの電源を入れます。BluePorter-V をお使いの場合は、USB アダプタを接続して BluetoothManager を ON にします(アイコンが赤から白に変わります)。
- パソコンで「BluePorter-V」(WLF-003:別売)を起動します。
- 接続する本製品のデフォルトデバイスとして、送信側のパソコンを設定します。
 「3-7-3 Bluetooth:Bluetoothの登録設定」-「■リモートデバイス」(P. <u>117</u>)で、接続先のリモートデバイス情報を登録してください。

●送信側が PET-100-M の場合

- 待受けのみ可能です。
- 受信側の本製品を、送信側の PET-100-M のデフォルトデバイスに設定します。
 「3-7-3 Bluetooth: Bluetooth の登録設定」 「■リモートデバイス」(P. <u>117</u>)で、接続先のリモートデバイス情報を登録してください。

[システムメニュー] → [2:受信] → [1:Bluetooth]

①受信方法を選択します。



ファイルリストから選択:送信側からファイルリストを取得します。受 信側はそのリストから受信したいファイルを選択することができます。 待受け (PET):直ちに受信待機状態となります。受信するファイルは、 送信側の PET-100-M が送信したものです。 [1:ファイルリストから選択]→手順②へ

[2:待受け (PET)]→送信側の PET-100-M で送信開始→手順③へ



< ファイルリスト > ✓ <mark>sample1.OUT</mark> ✓ sample2.OUT

(FT)実行 (F2)メニュー

接続の方向は次のようになります。

- ・ファイルリストから選択:受信する本製品から接続します。
- ・待受け(PET):送信側の PET-100-M から接続します。

② ファイルリストを取得し、受信するファイルを選択します。

受信するファイルをチェックします。

【F1】キーを押すと受信確認ダイアログが表示されます。この際、チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中のファイルを受信します。

[はい] / [いいえ] を選択します。



【F2】キーを押すとファイルリストを操作するためのサブメニューが表示されます。

必要に応じて設定します。

・フルネーム

選択中のファイル名の全体を表示します。

- ・全てチェックをつける
 ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。
- ・全てチェックをはずす
 ファイルリストのチェックボックスから全てチェックをはずします。

③ 受信が開始されます。

sample1.0UT

<受信中(1/2) >

0213456 / 0616023

受信状況が画面に表示されます。



受信するファイルと同じファイル名が存在する場合は、上書き確認ダイ アログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。

④ 受信を完了します。



複数のファイルをチェックした場合は、メッセージボックス内に「(受 信成功数/チェック数)」が表示されます。

【ENT】キーを押します。

3-4-2 IrDA:赤外線通信でファイルを受信

受信の際は、あらかじめ次のことを確認してください。受信したファイルは全て F ドライブに保存されます。

●送信側がパソコンの場合

- パソコンの電源を入れます。
- パソコンで「BluePorter-V」(WLF-003:別売)や、「BluePorter-L」(WLF-004:別売)を使用し たアプリケーションソフトを起動します。
- 本製品を USB 通信ユニットまたは LAN 通信ユニットにセットし、赤外線通信の準備をします (「USB 通信ユニットによる通信」(P. <u>46</u>) または「LAN 通信ユニットによる通信」(P. <u>47</u>) 参照)。

●送信側が PET-100-M の場合

- 「待受け(PET)」で送信可能になります。
- 「赤外線(IrDA)通信」(P.<u>46</u>)の本体間通信を参照して通信します

[システムメニュー] → [2:受信] → [2:IrDA]

①受信方法を選択します。



ファイルリストから選択:送信側からファイルリストを取得します。受 信側はそのリストから受信したいファイルを選択することができます。 待受け (PET):直ちに受信待機状態となります。受信するファイルは、 送信側の PET-100-M が送信したものです。

[1:ファイルリストから選択] →手順②へ

[2:待受け (PET)] →送信側の PET-100-M で送信開始→手順③へ



接続の方向は次のようになります。

- ファイルリストから選択:受信する本製品から接続します。
- ・待受け(PET):送信側の PET-100-M から接続します。

② ファイルリストを取得し、受信するファイルを選択します。

受信するファイルをチェックします。 < ファイルリスト > 🗹 samplel. OUT 🗹 sample2. OUT 【F1】キーを押すと受信確認ダイアログが表示されます。この際、チェ ックされているファイルが1つもない場合は、選択中のファイルを受信 します。 [はい] / [いいえ] を選択します。 (F1)実行 (F2)メニュー 【F2】キーを押すとファイルリストを操作するためのサブメニューが表 < ファイルリスト > 示されます。 🗹 samplel. OUT 2 0117 必要に応じて設定します。 フルネーム 全てチェックをつける 全てチェックをはずす ・フルネーム 選択中のファイル名の全体を表示します。 (F1)実行 (F2)メニュ− ・全てチェックをつける ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。 ・全てチェックをはずす ファイルリストのチェックボックスから全てチェックをはずします。

③ 受信が開始されます。

sample1.0UT

< 受信中(1/2) >

0213456 / 0616023

受信状況が画面に表示されます。



受信するファイルと同じファイル名が存在する場合は、上書き確認ダイ アログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。

④ 受信を完了します。



複数のファイルをチェックした場合は、メッセージボックス内に「(受 信成功数/チェック数)」が表示されます。 【ENT】キーを押します。

3-5 ファイル:ファイルの実行・送信・削除など

目的のファイルを探し、実行、送信、削除などの各種操作ができます。

各ドライブのファイル種類ごとに分類されたリストから、操作するファイルを選択します。ファイル の種類は拡張子(ファイル名のピリオドに続く3文字)により決定され、次のように分類されます。

拡張子	ファイルの種類
OUT	アプリケーションソフト
BMP	ビットマップ
それ以外	データ

可能な操作は次の通りです。特定のファイルの種類に関連付けられた操作と、全てのファイルで有効な操作があります。

操作	説明
実行*1	アプリケーションソフトを起動します。ファイルの種類が「アプリ ケーション」のファイルのみ操作可能です。
閲覧 ^{**2}	ビットマップイメージを表示します。ファイルの種類が「ビットマ ップ」のファイルのみ操作可能です。
情報	ファイルに関する各種情報を表示します。
 送信	ファイルを送信します。
削除	ファイルを削除します。
テスト	ファイルが破損していないか調べます。
全てチェックをつける	ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。
全てチェックをはずす	ファイルリストのチェックボックスから全てチェックをはずしま す。

*1 Sドライブのファイルは操作できません。

*2 サポートするビットマップファイルは次の通りです。

フォーマット	Windows Bitmap モノクロイメージ
サイズ	132×128 ピクセル固定

[システムメニュー] → [3:ファイル]

①ファイルの種類を選択します。



操作対象のファイルの種類を選択します。「全種類」を選択すると、フ ァイルの種類に関係なく、ドライブに保存されている全ファイルが対象 となります。

② ドライブを選択し、操作するファイルをチェックします。



Fドライブがカレントドライブになります。

F ドライブにファイルが格納されていない場合は S ドライブがカレント ドライブになります。

【F2】キーを押すたびにカレントドライブが切替わります。

ファイルを選択して【ENT】キーを押すと、チェックボックスのチェッ クをつけたりはずしたりすることができます。

チェックされたファイルが対象になる操作と、選択されたファイルが対 象になる操作があります。

③ ファイルを操作します。



【F1】キーを押すと、ファイル操作のサブメニューが表示されます。 (注)選択するファイルにより、以下のサブメニューの項目は異なりま す。

- ・実行:アプリケーションソフトの実行(P.103)
- ・閲覧:ビットマップファイルの表示(P.103)
- ・情報:ファイル詳細情報の表示(P.104)
- ・送信:ファイルをパソコンや他の端末に送信(P.104)
- ・削除:ファイルを削除(P.106)
- ・テスト:ファイルの破損をチェック(P.106)
- ・全てチェックをつける:全てのファイルを選択(P.<u>107</u>)
- ・全てチェックをはずす:全てのファイルの選択をはずす(P.107)



$[システムメニュー] \rightarrow [3:ファイル] \rightarrow [F1 メニュー] \rightarrow [実行]$

選択したファイルを実行します。



選択中(反転表示)のファイルが実行されます(チェックボックスのチ ェック状態とは関係ありません)。

【ENT】キーを押すと実行されます。

実行するアプリケーションソフトが自動実行に登録されていない場合、 登録を確認するダイアログが表示されます。

実行されたアプリケーションソフトを終了するには、アプリケーション ソフトごとに定められた操作を行ってください。終了後にシステムメニ ューが再度表示されるか、本体の電源を OFF にするかはアプリケーシ ョンソフトに依存します。

動作中に電池が切れた時はアラーム表示後に本体の電源が OFF になります。

アプリケーションソフトを強制的に終了したい場合は、アプリケーショ ンソフトの動作中に【PW】キーを 10 秒間押し続けてください。

■閲覧:ビットマップファイルの表示

操作手順

[システムメニュー] → [3:ファイル] → [F1 メニュー] → [閲覧]

ビットマップファイルを表示して確認します。



選択中(反転表示)のファイルの画像が表示されます(チェックボック スのチェック状態とは関係ありません)。 何かキーを押すと「ファイル操作メニュー」に戻ります。 ■情報:ファイル詳細情報を表示

操作手順

 $[システムメニュー] \rightarrow [3:ファイル] \rightarrow [F1 メニュー] \rightarrow [情報]$

ファイルの詳細な情報を確認します。



選択中(反転表示)のファイルに関する情報が表示されます(チェック ボックスのチェック状態とは関係ありません)。 何かキーを押すと「ファイル操作メニュー」に戻ります。

■送信:ファイルをパソコンや他の端末に送信 🕓

送信の際は、あらかじめ次のことを確認してください。

●受信側がパソコンの場合

- パソコンの電源を入れます。BluePorter-V をお使いの場合は、USB アダプタを接続して BluetoothManagerをONにします(アイコンが赤から白に変わります)。
- パソコンで「BluePorter-V」(WLF-003:別売)や、「BluePorter-L」(WLF-004:別売)を使用し たアプリケーションソフトを起動します。
- 送信手段として Bluetooth を使う場合は、接続する本製品のデフォルトデバイスとして、受信 側のパソコンを設定します。
 「3-7-3 Bluetooth: Bluetooth の登録設定」 – 「■リモートデバイス」(P. <u>117</u>)で、接続先のリモートデバイス情報を登録してください。

●受信側が PET-100-M の場合

送信手段として Bluet with を使う場合は、送信側となる PET-100-M のデフォルトデバイスとして、受信側の PET-100-M を設定します。
 「3-7-3 Bluet with: Bluet with の登録設定」 - 「■リモートデバイス」(P. <u>117</u>)で、接続先のリモートデバイス情報を登録してください。

$[システムメニュー] \rightarrow [3:ファイル] \rightarrow [F1 メニュー] \rightarrow [送信]$

① チェックされているファイルが送信されます。

送信するファイルを選択して、チェックします。

チェックされているファイルが1つもない場合は、選択中のファイルが 送信されます。

【F1】キーを押して、[送信]を選択して【ENT】キーを押します。

② 送信方式を選択します。



送信方式を選択します。

- \cdot Bluetooth
- ・IrDA (赤外線)

③ 送信が開始されます。



送信状況が画面に表示されます。

④ 送信を完了します。



複数のファイルをチェックした場合は、メッセージボックス内に「(送 信成功数/チェック数)」が表示されます。

【ENT】 キーを押します。



[システムメニュー] → [3:ファイル] → [F1 メニュー] → [削除]

チェックされているファイルを削除します。

ただし、チェックされているファイルが 1 つもない場合は、選択中(反転表示)のファイルが削除さ れます。



確認ダイアログが表示されます。 [はい]/[いいえ]を選択します。

■テスト:ファイルの破損をチェック

操作手順

チェックされているファイルをテストします。

ただし、チェックされているファイルが 1 つもない場合は、選択中(反転表示)のファイルをテスト します。



テストしたファイルが破損している場合、ファイル削除の確認ダイアロ グが表示されます。[はい] / [いいえ] を選択します。

- ・はい:直ちにファイルは削除されます。
- ・いいえ:何もしません。

複数のファイルをチェックして、いずれかのファイルで [はい] を選択 すると、次のファイルのテストが続行されます。



破損したファイルをそのまま使用すると、アプリケーションソフトが暴走するなど予期 せぬ事態が発生する可能性があります。破損したファイルは削除することを強くお奨め します。 ■全てチェックをつける:全てのファイルを選択

操作手順

[システムメニュー] → [3:ファイル] → [F1 メニュー] → [全てチェックをつける]

全てのチェックボックスがチェックされます。

< 7711 (F) >	
☑ 132X128. BMP	
COPAN1. BMP	-
COPAN2. BMP	
HABANERO. BMP	
☑KOUME1. BMP	
KOUME2. BMP	
☑MAKE. TXT	
(F1)メニュー (F2)Sト゛ライフ゛	

■全てチェックをはずす:全てのファイルの選択をはずす

操作手順

 $[システムメニュー] \rightarrow [3:ファイル] \rightarrow [F1 メニュー] \rightarrow [全てチェックをはずす]$

全てのチェックボックスのチェックをはずします。

< ファイル(F) >	
□ <u>132X128.</u> BMP	
□COPANT. BMP □COPAN2. BMP	
HABANERO. BMP	
\square KOUME I. BMP \square KOUME 2. BMP	
(FI)X=1-(F2)SF 71/	
3-6 端末 ID:端末識別用 ID を設定

個々の PET-100-M に識別用の ID 番号を設定します。端末ごとに固有の番号を設定してください。



第3章 システムメニュー

3-7 デバイス:ハードウェアの機能を設定

バーコードスキャナやキーなどのハードウェアデバイスを設定します。デバイスカテゴリ内は、デバ イスの種類ごとに分類されています。

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス]

設定するハードウェアデバイスを選択します。



設定する項目を選択します。

- ・バーコード:バーコードスキャナの設定(P.109)
- ・キー:キー入力の設定(P.114)
- ・Bluetooth: Bluetoothの登録設定(P.115)
- ・画面:液晶画面の設定(P.121)
- ・音/バイブ:音量・LED・バイブレータの設定(P.123)

3-7-1 バーコード:バーコードスキャナの設定

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [1:バーコード]

設定するバーコードスキャナの機能を選択します。

< パーコート > 1:トリガモート 2:デ コート レヘ ル 3:スキャン角度 4:反転パーコート

次の項目から選択します。

- ・トリガモード
- ・デコードレベル
- ・スキャン角度
- ・反転バーコード

■トリガモード

レーザスキャナの動作条件を設定します。

この設定は、バーコードの読取りに「トリガモード」を使用しているアプリケーションソフトでのみ 有効です。

操作手順

トリガモードで設定する項目を選択します。



●読取りキー操作

読取りキーの操作とレーザの照射パターンを設定します。バーコードはレーザが照射(点灯)されて いる状態で読取ることができます。

操作手順

→ [1:読取りキー操作]

サブメニューから読取りキーの設定を選択します。



・ノーマル
 読取りキーを押すとレーザが照射されます。
 ・ダブル
 読取りキーを押すとレーザが点滅します。もう一度押すとレーザが照射されます。
 ・リリース
 読取りキーを押すとレーザが点滅し、読取りキーを離すとレーザが照射されます。

・オート 読取りキーの操作に関係なく自動的にレーザが照射されます。 第3章 システムメニュー

●パワーセーブ

読取り時の消費電力を抑えます。

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [1:バーコード] → [1:トリガモード] → [2:パワーセーブ]

サブメニューからパワーセーブの設定を選択します。



・フルセーブ バーコードを読取るとレーザを自動的に消し、さらにスキャナ部への 電源の供給も停止します。消費電力は小さくなりますが、次の読取ま でに時間がかかります。

・クイックセーブ バーコードを読取るとレーザを自動的に消しますがスキャナ部へは 電源供給は続けます。フルセーブに比べて消費電力は若干大きくなり ますが、次の読取はスムーズにできます。

・ノーセーブ パワーセーブモードを使用しません。

●レーザ照射時間

自動的にレーザ光を消すまでの時間を設定します。

操作手順

→ [3:レーザ照射時間]

🙀 レーザ光を消すまでの時間を入力します。



設定可能な時間は 00~60 秒です。

なお、00秒に設定するとレーザは消えずに照射したままとなります。

■デコードレベル

バーコードの読取許容範囲を設定します。

デコードレベルを「厳しい」に設定すると、ラベルを厳格にチェックします。そのため品質の悪いラ ベルは読みにくくなりますが、誤読する可能性は低くなります。

一方、デコードレベルを「緩い」に設定すると、ある程度品質の悪いラベルも読取るようになります が、誤読する可能性も高くなります。

「緩い」に設定する場合は、必ずチェックディジットのチェックや、桁数チェック、データチェック 等のソフトウェア上のチェックをするようにしてください。

操作手順

 $[システムメニュー] \rightarrow [5:デバイス] \rightarrow [1:バーコード] \rightarrow [2:デコードレベル]$

デコードレベルを設定します。



「厳しい」、「通常」、「緩い」から選択します。

レベル値と読取りやすさの関係は次の通りです。

読取レベルと誤読レベルは比例します。

レベル値	読取(誤読)率
厳しい	厳しい(誤読しにくい)
通常	$\uparrow \downarrow$
緩い	緩い(誤読しやすい)

【F1】キーを押すと設定値に関するガイダンスが表示されます。

<	デ]-ŀ	*	'n	>	
	推行	奨す 回る	る基為、	ま準誤	しへ l読	ルを 軽が
	高宜け	くな しい い	:りき です	ます	? ₹	
Ļ	14	0 1	U			
F	1)))"	<u> </u>	ソス			

レベルを「緩い」に設定しようとした場合、誤読に関する注意ガイダン スが表示されます。

[はい] または [いいえ] を選択します。

■スキャン角度

レーザの照射角度を設定します。近接したバーコードを読む時など、照射角度を狭くすると読みたい バーコードに照準を合わせやすくなります。

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [1:バーコード] → [3:スキャン角度]

照射角度を選択します。



■反転バーコード

白黒の反転したバーコードの読取りに関して設定します。

操作手順

[システムメニュー] → **[5:デバイス]** → **[1:バーコード]** → **[4:反転バーコード]**

反転バーコードの読取りを、禁止または許可を選択します。



・禁止(デフォルト)
通常の、バーが黒、スペースが白のバーコードを読取ります。
・許可
バーとスペースの白黒が逆転したバーコードを読取ります。

3-7-2 キー:キー入力の設定

矢印キーの長押し開始から最初に繰返し入力が発生するまでの時間(リピート開始時間)と、以降繰返し入力が発生するまでの時間(リピート間隔)を設定します。

矢印(【▲】、【▼】、【◀】、【▶】)キーを長押しすると、押されている間その方向キーを繰返し入力する ことができます。

(例) リピート開始時間を1秒、リピート間隔を500ミリ秒に設定した場合



操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [2:キー]

リピート開始時間とリピート間隔を設定します。



設定可能な時間は 0100~1000 ミリ秒です。

なお、0000ミリ秒に設定すると繰返し入力は禁止されます。

3-7-3 Bluetooth: Bluetoothの登録設定 🖾

操作手順

$[システムメニュー] \rightarrow [5:デバイス] \rightarrow [3:Bluetooth]$

設定対象を選択します。

< Bluetooth >

<u>]:ローカルデ バ イス</u> 2:リモートデ バ イス ・ローカルデバイス:本製品の設定

・リモートデバイス:本製品と接続するデバイスの設定

■ローカルデバイス

本製品のローカルデバイスに関する設定をします。

操作手順

 $[システムメニュー] \rightarrow [5:デバイス] \rightarrow [3:Bluetooth] \rightarrow [1:ローカルデバイス]$

① 設定する項目を選択します。



② 設定を保存します。



【F1】キーを押し、保存確認ダイアログで [はい] を選択します。

●デバイス名

操作手順

 $[システムメニュー] \rightarrow [5:デバイス] \rightarrow [3:Bluetooth] \rightarrow [1:ローカルデバイス] \rightarrow [1:デバイス名]$

Bluetooth デバイスの名前を入力します。

< 7° DN° 71 >	
<u>1:デバイス名</u> PET-100	
l J 2:BDアト [*] レス [00:03:7A:0B:0A:AB] 3:セキュリティ]
4:バ−ジョン (FI)保存	

デバイス名は最大 30 文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

●セキュリティ

接続時の認証に関する設定をします。

操作手順

 $[システムメニュー] \rightarrow [5:デバイス] \rightarrow [3:Bluetooth] \rightarrow [1:ローカルデバイス]$

→ [3:セキュリティ]

①認証の設定をします。



チェックボックスをチェックすると、ローカルデバイスがリモートデバ イスから接続要求を受けた場合に認証を行います。 認証できたリモートデバイスだけが接続を許可されます。 第3章 システムメニュー

② PIN コードを設定します。



PIN (Personal Identification Number) コードは認証の際に使用するパ スワードです。 大小英文字、数字、記号で最大 16 桁まで入力可能です。 セキュリティ対策として、入力後の PIN コードは伏字(*)に変換されて 表示されます。

●バージョン

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [3:Bluetooth] → [1:ローカルデバイス] → [4:バージョン]

Bluetooth デバイスのファームウェアバージョンを確認します。

確認後、【C】キーを押すとくプロパティ>画面に戻ります。

■リモートデバイス

< // - > + 37 > hcl : 2.0 hr : 0x0m5m Imp : 2.0 man : csr Is : 0x0m5m

本製品と接続するデバイス(リモートデバイス)に関する設定をします。

操作手順

設定する項目を選択します。



- ・登録デバイス
- ・デバイス検索
- ・検索オプション

●登録デバイス

接続先のリモートデバイス情報を最大 7 件まで登録できます。あらかじめ登録しておけば、接続のたびにデバイス情報を設定する必要はありません。

操作手順

→ [1:登録デバイス]

①登録する項目番号を選択します。



項目番号を選択し、デバイス情報を順次設定します。

デバイス情報が登録済みの場合は項目番号の右側にデバイス名が表示 されます。未登録の場合は項目番号の右側に[(未登録)]と表示されま す (デバイス名が 1 文字以上で、かつ BD アドレスが 「00:00:00:00:00」以外の場合に登録済みとして認識されます)。 項目番号の左側に♥が表示されているデバイスはデフォルトデバイス

です。システムメニューでは Bluetooth と接続する場合、デフォルトデ バイスに接続します。



【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。

必要に応じて次の設定をします。

・デフォルトに設定
 選択中の登録デバイスをデフォルトデバイスに設定します。

・登録抹消

・デバイス名

・BDアドレス

・セキュリティ

登録したデバイス情報を消去します。

② 設定する項目を選択します。



デバイス名、セキュリティの操作手順はローカルデバイスと同じです (P.116 参照)。

【F2】キーを押すと周辺のリモートデバイスを検索します。検出したリ モートデバイスを登録デバイスに設定することも可能です。

●BD アドレス

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [3:Bluetooth] → [2:リモートデバイス] → [1:登録デバイス] → [2:BD アドレス]

BD アドレスを入力します。

< プロパティ >
l : デ バ イス名 「]
 2:BDアドレス [0 0:03:7A:0B:0A:AB] 3:セキュリティ
FI保存 F2検索

BD アドレスはデバイス固有のハードウェアアドレスです。 16 進文字(0~9、A~F)で12 桁の固定長です。

●デバイス検索

周辺のリモートデバイスを検索します。検出したリモートデバイスを登録デバイスとして設定することができます。



デバイス検索の対象に他の端末を含めたい場合は、対象となる端末を「ローカルデバイ スの設定中」にしておく必要があります。

「ローカルデバイスの設定中」とは、ローカルデバイス設定の<プロパティ>画面の状態を指します。

操作手順

- → [2:デバイス検索]
- ①検索が開始されます。



【C】キーを押すと検索を中止します。

② 検索結果の一覧が表示されます。



検出したリモートデバイスのデバイス名の一覧が表示されます。



検出できるデバイス名は英数記号です。パソコンのデバイス名にかな漢字を使用しない でください。



【F1】キーを押すと選択中のリモートデバイスのデバイス名、BD アド レスが表示されます。

【C】キーを押すとく検索結果一覧>画面に戻ります。

③ 検出したリモートデバイスを登録します。



< 検索結果一覧 >

L 既にテ ハ イスが登録 されています. 上書しま<u>すか?</u>

いいえ

USB-Adantor

はい

(FT)情報

登録するリモートデバイスを選択して【ENT】キーを押すと、サブメニ ューが表示されます。 リモートデバイスを登録するリモート番号を選択すると登録されます。

既に登録済みのリモート番号を選択した場合は、上書き確認ダイアログ が表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択します。

●検索オプション

デバイス検索で検出するリモートデバイスの台数の上限を設定します。

操作手順

→ [3:検索オプション]

検索台数を入力します。

< 検索オプション >

検索台数 [5](1 - 9)

設定可能な台数は 1~9 台です。

検索台数が多いほど、検索時間は長くなります。

3-7-4 画面:液晶画面の設定 😂

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [4:画面]

設定する項目を選択します。



次の項目から選択します。

- ・コントラスト
- ・バックライト輝度

■コントラスト

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [4:画面] → [1:コントラスト]

画面のコントラストを調節します。



1~8の8段階に調節できます。

【▲】キーで上に、【▼】キーで下にスライダーが移動します。

スライダーの上下に合わせてコントラストがリアルタイムで変化する ので、レベル値の状態を確認できます。

レベル値とコントラストの関係は次の通りです。

レベル値	コントラスト
8	高(濃)い
\$	₽
1	低(薄)い

■バックライト輝度

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [4:画面] → [2:バックライト輝度]

バックライトの輝度を設定します。

< バックライト輝度 >

☑高輝度にする

[高輝度にする]をチェックすると、バックライト点灯時の輝度が高く なります。

ただし、その場合チェックをはずしている状態(標準輝度)と比べて消 費する電力は大きくなります。

設定を開始すると自動的にバックライトが点灯し、選択した状態に合わ せて輝度がリアルタイムで変化します。



電池残量が規定値以下の場合は、バックライトは点灯しません。

3-7-5 音/バイブ:音量・LED・バイブレータの設定 🔯

音、LED、バイブレータの設定をします。

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [5:音/バイブ]

設定するデバイスを選択します。



■ボリューム

操作手順

[システムメニュー] → **[5:デバイス]** → **[5:音/バイブ]** → **[1:ボリューム]**

ブザーの音量を調節します。



1~8の8段階に調節できます。

【▲】キーで上に、【▼】キーで下にスライダーが移動します。

スライダーの上下に合わせて音量がリアルタイムで変化するので、レベ ル値の状態をその場で確認できます。

レベル値と音量の関係は次の通りです。

レベル値	音量
8	大きい
\$	ţ
1	小さい

1に設定すると、消音になります。

■インジケータ

インジケータとは、作業者の注意を喚起する3つのデバイス(ブザー/バイブレータ/LED)を組合せた 総称です。

インジケータを使用すれば、作業者に対して現在の状況をより感覚的に知らせることができます。どのインジケータがどのような場面で使用されるかは、アプリケーションソフトごとに設定します。なお、システムメニューは各シーンのパターン3のインジケータが適用されます。

例えば、

- 確定時は高音を短めに1回鳴らし、緑色のLEDを点灯させる
- エラー時はバイブレータを振動させながら低音を3回鳴らし、赤色のLEDを点滅させる

など、お客様の使用環境に合わせた様々な設定が可能です。

キーを押す(クリック)、確定するといった作業時の代表的なシーン5種類と、お客様の任意のシーン (ユーザ)を1つ加えた合計6シーンが、それぞれ3パターンずつ用意されています。

操作手順

[システムメニュー] → **[5:デバイス]** → **[5:音/バイブ]** → **[2:インジケータ]**

① 設定するインジケータを選択します。

< インジ ケータ	>
]:++>>tll]	10:注意1
2:++>セル2	11:注意2
3:++>セル3	12:注意3
4:確定1	13:15-1
5:確定2	14:15-2
6:確定3	15:17-3
7: /////	16:ユーザ 1
(F1)X=1-) (((((((((((

画面下部右下にインジケータの設定状況を示すアイコンが表示されま す。

- € ∶ブザーが設定されています。
- №:バイブレータが設定されています。
- 🚨:LED が設定されています。

1:まいかり 10:注意1 2:非 アレビュー 3:非 初期値 4:函 全て初期値 5:確定2 14:Iラ-2 6:確定3 15:Iラ-3 7:クリック1 16:ユーザ1	< インジ ケータ	>	
	1:まつかい 2:ま 3:ま 4:確定2 6:確定3 7:クリック1	<u>10.3</u> 直 刃期値 14:I 15:I 16:1-	意1 意2 意3 1 2

【F1】キーを押すとサブメニューを表示します。

- ・プレビュー
 - 現在のインジケータを実際に体感できます
- ・初期値
 - 選択されているパターンの設定内容を破棄し、初期値にします
- ・全て初期値
 - 全シーンの全パターンの設定内容を破棄し、初期値にします。

第3章 システムメニュー

② 設定するデバイスを選択します。

< 7 [°] // 17 >	手順①の画面で、設定する項目を選択した後、【ENT】キーを押すとデ バイス名が表示されます。
1:7 [*] # [*] - 2: [^] 47 [*] 3: LED	設定するデバイスを選択して【ENT】キーを押します。

●デバイスの動作条件

動作条件には全デバイスで共通なものと、デバイス独自のものがあります。



[システムメニュー] → **[5:デバイス]** → **[5:音/バイブ]** → **[2:インジケータ]**

→デバイスを選択

① 有効にするチェックボックスを操作します(全デバイス共通)。



チェックボックスでデバイスの動作を ON/OFF します。 チェックをするとデバイスが動作し、はずすと他の設定に関わらずデバ イスは動作しません。 本設定内容がアイコンとして表示されます。



【F1】キーを押すとサブメニューが表示されます。 必要に応じて設定します。

・プレビュー

現在のインジケータを実際に体感できます。

・初期値

設定中のパターンの設定内容を破棄し、初期値にします。

なお、画面下部左下に【F1】メニューが表示されている場合、デバイス の動作条件全体を通じ操作手順は同じです。 ② ブザーの周波数を入力します。



カーソルを移動して周波数を選択し、【ENT】キーを押します。 周波数の値にカーソルが移動します。

【▲】キーで高い周波数に、【▼】キーで低い周波数に設定できます。 設定範囲は、130~4186Hz です。この周波数範囲内で、あらかじめ決 められた 60 種類の周波数に設定されます。数値で入力した場合は、入 力した値に近い周波数に自動的に設定されます。

周波数の値に関しては「4-4 ブザー周波数」(P.<u>161</u>)を参照してくだ さい。

< ブザ - > 図有効に<u>する</u> **周波 低音** おい時 中音 01ミリ秒 おフ時 高音 01ミリ秒 回 数(00) 周波数入力中は画面下部左側のファンクションキーガイダンスの内容 が変わります。

【F1】キーを押すと、周波数サンプルのサブメニューが表示されます。 サンプルを基準に数値の微調整を行うと、スムーズに設定できます。

③ LED の色を設定します。



サブメニューから項目を選択します。

④ ブザー、バイブレータ、LED のオン時間を入力します(全デバイス共通)。



デバイスの1回あたりの動作時間を入力します。 設定範囲は00000~999999ミリ秒です。 数字キーで数値を入力します。 00000ミリ秒を設定するとデバイスは動作し続けます。

⑤ ブザー、バイブレータ、LED のオフ時間を入力します(全デバイス共通)。



⑥ ブザー、バイブレータ、LED の繰返し回数を入力します(全デバイス共通)。



デバイスが動作と停止を繰返す回数を入力します。 設定範囲は 00~99 回です。 数字キーで数値を入力します。 00 を設定すると、再度そのデバイスが動作されるまで繰返し続けます。

■キークリック音

キーを押した時にクリック音を鳴らすかどうかを設定します。

クリック音はキーを押すと、すぐに再生されます。アプリケーションソフトやインジケータで鳴らし ている音がある場合、後から鳴った音で前の音が中断されます。タイミングによっては、その中断に よって音が濁って聞こえることがあります。

操作手順

[システムメニュー] → [5:デバイス] → [5:音/バイブ] → [3:キークリック音]

キーを押した時に再生される音のパターンを選択します。



・なし(デフォルト) キークリック音は鳴りません。

・クリック音

【PW】キーを除く全てのキーに対して、押した時に「ピッ」という ビープ音を鳴らします。 第3章 システムメニュー

メンテナンス:基本情報とメンテナンスの設定 3-8

本製品の基本的な情報の確認、パフォーマンスの改善や保守などができます。

操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス]

メンテナンスする項目を選択します。

< メンテナンス >
1:電池残量 2:システムバージョン
3:初期化 4:クローン
5:ドライブ 6:長期保管
7 : ウィザ´ート゛ 8 : BHCP

設定する項目を選択します。

- ・電池残量:バッテリーパック/乾電池残量の確認(P.128)
- ・システムバージョン:OSバージョンの確認(P.129)
- ・初期化:レジストリ/ドライブの初期化(P.129)
- ・クローン:複製の作成(P.131)
- ・ドライブ:ドライブ情報の表示(P.136)
- ・長期保管:長期間使用しない時の設定(P.137)
- ・ウィザード:簡単に通信設定ができる画面の起動(P.138)
- ・BHCP:システム設定、ファイルの起動時自動ダウンロード(P.138)

3-8-1 電池残量:乾電池/バッテリーパック残量の確認

乾電池またはバッテリーパックの残量を確認します。残量はあくまで目安としてご覧ください。





電池残量を確認します。





<乾電池の場合> <バッテリーパックの場合>

残量は6段階で表示されます。

3-8-2 システムバージョン:OS バージョンの確認

インストールされている OS のバージョン情報を表示します。

操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [2:システムバージョン]

OS のバージョンを確認します。

< ジステムパ ージ ョン > 0 S : 1.00

3-8-3 初期化:レジストリ/ドライブの初期化 💬

レジストリやドライブを初期化します。



初期化を実行すると設定した内容が出荷時の状態に戻ったり、ファイルが全て消去され たりします。初期化を実行する時はこの点を充分にご理解の上、細心の注意を払ってく ださい。

操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [3:初期化]

① 初期化する項目を選択します。

<初期化 > 「<u>」ジストリ</u> □Fドライブ □Sドライブ 「」実行 F2X=1初期化する項目にチェックをつけます。

1つもチェックされていない場合は実行できません。

第3章 システムメニュー

② 初期化を開始します。



③初期化を完了します。



【ENT】キーを押して初期化を完了します。 レジストリを初期化した場合は電源が OFF になります。

注意

レジストリを初期化する時にFドライブにファイルが存在しない場合、チェックの有 無を問わず自動的にFドライブも初期化します。

3-8-4 クローン: 複製の作成 🔄

システムメニューで設定されたパラメータや、F ドライブに保存されたファイルを、別の PET-100-M にコピーし、同じ設定とファイルを持った端末を作成します。

注意

Sドライブに保存されたファイルはコピーされません。

■クローン実行の手順

クローンは、Bluetooth 通信および赤外通信(IrDA)通信どちらでも実行できます。

①事前設定

<Bluetooth 通信の場合>

マスター端末となる機器のリモートデバイスとしてコピー端末を登録します。

「■リモートデバイス」(P.<u>117</u>)を参照してください。

<赤外通信 (IrDA) の場合>

事前設定は必要ありません。

②マスター端末でクローン(コピー)する項目を選択します。

③コピー端末を初期化します。

④コピー端末側の準備が完了していることを確認した後、マスター端末でクローン実行を行います。

⑤マスター端末側でクローン完了が表示されたことを確認します。

⑥コピー端末側の確認ダイアログを終了し、電源を OFF して完了します。



Bluetooth 通信および赤外通信 (IrDA)については、「2-3 通信の方法」 (P.<u>59</u>) を参照 してください。 クローンを実行する時は次のことを充分にご理解の上、細心の注意を払って実行してく ださい。

注意

- ・Bluetooth 通信で電波状態が悪い場合や、赤外通信(lrDA)で外乱光などの周囲環 境が悪い場合、コピーが正常に行われない場合でも、マスター側で「完了しました」 表示が出る場合があります。
- ・コピー端末は、マスター端末から受信する前に端末内が初期化されます。そのためクローンに失敗した場合、設定値が出荷時の状態に戻ったり、ファイルが全て消去されたりします。
- ・コピー端末は最初に初期化を実行するため、クローン可能な状態になるまでにしばらく時間がかかる場合があります。

操作手順

$[システムメニュー] \rightarrow [6:メンテナンス] \rightarrow [4:クローン]$

①通信手段を選択します。



② 本製品がマスター端末かコピー端末かを設定します。



・マスター:複製元の PET-100-M の場合・コピー:複製先の PET-100-M の場合

■マスター:本製品が複製元

複製する設定とファイルを選択し、クローンを実行します。

操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [4:クローン] → [1:Bluetooth/2:lrDA] → [1:マスター]

① クローンする項目を選択します。

コピーする項目を選択します。 < クローン (マスター) > コピー端末が初期化を終了して接続待ち状態になっていることを確認 ✓システム したら、【F1】キーを押してクローンを開始します。 ☑セキュリティ ☑ユーザ ▶コニーク ☑ III , ☑ FN ライブ (FT)実行(F2)メニュー 【F2】キーを押すとサブメニューが表示されます。 < クローン (マスター) > 必要に応じて設定します。 ✓システム 5t - 115 全てチェックをつける <u>~全てチェックを</u>はずす ・全てチェックをつける ☑ ト ライブ チェックボックスを全てチェックします。 ・全てチェックをはずす [E]実行 [E2]メニュー チェックボックスから全てチェックをはずします。

② クローン操作を完了します。



【ENT】キーを押してクローン操作を完了します。

●コピーする項目の説明

・システム

PET-100-Mのシステムソフトウェア(OS)が独自に管理しているパラメータです。 お客様のアプリケーションソフトで使われることはありませんので、この項目は選択しなくても構いません。

・セキュリティ

システムメニューの起動時パスワードとBluetoothのセキュリティ設定です。

コピー端末でも同じセキュリティ設定を使用したい場合は選択します。

・ユーザ

セキュリティ、ユニーク以外の全てのシステムメニューで設定したパラメータです。 この項目を選択すると、システムメニューで設定したパラメータの大半が複製されます。

ユニーク

端末 ID および Bluet oth のローカルデバイス名と自局のセキュリティ設定です。

基本的には各端末に固有のパラメータですが、それも含めて複製したい時には選択します。

・Fドライブ

Fドライブに格納されたファイルをコピーします。

アプリケーションソフトやマスターファイルなどを複製したい時に選択します。

■コピー:本製品が複製先

操作手順

 $[システムメニュー] \rightarrow [6:メンテナンス] \rightarrow [4:クローン] \rightarrow [1:Bluetooth/2:IrDA]$

→ [2:⊐ピー]

①本製品を初期化します。



マスター端末でクローンを実行(【F1】キー押下)する前に実行してく ださい。

実行確認ダイアログが表示されます。

[はい] / [いいえ] を選択してください。

② クローン可能な状態になったことが通知されます。



【ENT】キーを押して接続待ち状態にします。 この時点で、マスター端末のクローン実行(【F1】キー押下)を行って ください。

③ マスター端末の画面を確認してください。



コピー端末側ではクローンが完了したことを確認できませんので、必ず マスター端末側の画面で転送が完了していることを確認してください。 もしマスター端末側の転送が完了していない場合は、再度クローンを実 行してください。

【ENT】 キーを押します。

④ クローンを完了します。



【ENT】キーを押します。 電源が OFF になります。

3-8-5 ドライブ:ドライブ情報の表示 🖾

ドライブに関する各種情報の確認および保守を実施します。

操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [5:ドライブ]

① ドライブを選択します。





② ドライブの情報が表示されます。

< Fドライブ情報 > 全容量 [12058624] パイト 使用領域 [283648] パイト 空き領域 [11774976] パイト ファイル数 4/64] F1)デ フラク



次の情報が表示されます。

- ・全容量
- ·使用領域
- ・空き領域
- ・ファイル数(使用数/最大数)
- F ドライブでは、【F1】キーを押すとデフラグして最適化することがで きます。

【ENT】キーを押すとダイアログが表示されます。

・ノーマル

ファイルの書込みや削除の過程で発生した不要な領域を物理的に削 除します。

 ・ディープ ノーマルの実行に加え、確保した空き領域を連続した領域になるよう 再配置します。
 ディープはドライブの状態により完了まで数秒~数分かかる場合が あります。通常はノーマルでの実行をお奨めします。



デフラグの途中では絶対に電池またはバッテリーパックをはずさないでください。デフ ラグの途中で電池またはバッテリーパックをはずすと、ファイルやシステムプログラム が破壊される恐れがあります。



F ドライブでファイルの書込みや削除を繰返すと、次第に空き領域が断片化され、サイ ズの大きいプログラムファイルが格納できなくなります。デフラグはドライブの空き領 域を連続した領域になるよう再配置し、断片化を解消します。

なお、システムプログラムは自動でデフラグを実行し、F ドライブの状態を適正に保つ ため、通常はデフラグの必要はありません。

3-8-6 長期保管:長期間使用しない時の設定

本製品を長期間使用しない場合には、電池の消耗を抑える設定にします。 レジュームとSドライブの消去を実行します。

操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [6:長期保管]

① レジュームとSドライブが消去されます。



実行確認ダイアログが表示されます。 [はい]/[いいえ]を選択します。

② 長期保管の準備を完了します。



【ENT】キーを押します。

電源が OFF になります。



長期保管の後に電源を ON した場合、「S ドライブを初期化しました」のメッセージが 表示されますが、故障ではありません(「1-2-7 長期保管する場合」(P.44)参照)。

3-8-7 ウィザード:簡単に通信設定ができる画面の起動

本製品を最初に起動した時に実行される設定ウィザードを再度起動することができます。本製品とパ ソコンとの間で通信するために最低限必要な設定ができます。

操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [7:ウィザード]

ウィザードによる設定を実行します。



[はい] / [いいえ] を選択します。

[はい]を選択すると、リモート Bluetooth デバイスと端末 ID を設定 するウィザードが実行されます。[いいえ]を選択すると元の画面に戻 ります。

詳細は、「3-1-3 初めてシステムメニューを起動する時」(P.<u>79</u>)をご 覧ください。

3-8-8 BHCP:システム設定とファイルの起動時自動ダウンロード

弊社独自のプロトコル BHCP(Basic Handy Configuration Protocol)にて、端末のシステム設定やファイルダウンロードを自動で行うことができます。

「■スタートアップの種類」(P.<u>140</u>) が [アプリケーション起動時]、[システムメニュー起動時] に 設定されている場合は、毎起動時に BHCP リクエストが実行されます。

[アプリケーション起動時] が選択され、かつ自動実行プログラムにアプリケーションソフトが選択 されている場合は、BHCP リクエストが実行された後にアプリケーションソフトが起動します。



BHCP 機能を使用するには、LAN 通信/充電ユニット(IU-004CL)と LAN 対応転送ユ ーティリティ「BluePorter-L」(WLF-004:別売)が別途必要です。



BHCP に関しては、LAN 対応転送ユーティリティ「BluePorter-L」のオンラインマニ ュアルをご覧ください。

操作手順

$[システムメニュー] \rightarrow [6:メンテナンス] \rightarrow [8:BHCP]$

設定する項目を選択します。



次の項目から選択します。

- ・デバイスの種類
- ・スタートアップの種類
- ・更新禁止項目

【F1】キーを押すと、「スタートアップの種類」に関わらず、即座に BHCP が実行されます。



操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [8:BHCP] → [1:デバイスの種類]

BHCP を実行する際の通信手段を選択します。

<	<u></u> 7*	٨Ť	イスの	種	頖	>	
1	:B	ue DA	too	th			
2		UP	l l				

·Bluetooth(出荷時設定)

• IrDA

■スタートアップの種類

操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [8:BHCP] → [2:スタートアップの種類]

BHCP 実行のタイミングを設定します。



設定する項目を選択します。

・無効にする(出荷時設定) 端末起動時に BHCP が実行されません。

- ・アプリケーション起動時
 アプリケーションソフトが実行される前に BHCP が実行されます。
 [システムメニュー] → [1:システム] → [1:自動実行] にてアプリケーションソフトが選択されている場合、端末起動後アプリケーションソフトが実行される前に BHCP 機能が実行されます。
 なお、ファイルカテゴリからアプリケーションソフトを起動した場合、BHCP は実行されません。
- ・システムメニュー起動時

システムメニューを起動する前に BHCP が実行されます。

[システムメニュー] → [1:システム] → [1:自動実行] にてシステ ムメニューが選択されている場合、端末起動後システムメニューが起 動される前に BHCP 機能が実行されます。

■更新禁止項目

操作手順

[システムメニュー] → [6:メンテナンス] → [8:BHCP] → [3:更新禁止項目]

BHCP 機能を実行する前に、次の端末固有の情報を変更しないように設定します。

< 更新禁止項目 >	史新を禁止する項目をチェックします。
□ 端 末 I D	・端末 ID



BHCP により設定可能な項目は以下の通りです。

- ・システムカテゴリ
 - ・自動実行(P.87)
 - ・時計(P.88)
 - ・レジューム (P.90)
 - ・オートウェイクアップ (P.92)
 - ・オートパワーオフ (P.93)

・端末 ID カテゴリ

- ・端末 ID (P.108)
- ・メンテナンスカテゴリ
 - ・デバイスの種類 (P.139)
 - ・スタートアップの種類(P.140)
 - ·更新禁止項目(P.141)

3-9 テスト:ハードウェアデバイスのテスト 🔄

ハードウェアデバイスを動作させ、状態をテストします。

操作手順

< 771 >

2:IrDA 3:パ-コ-ド 4:画面

5: +-

1:Bluetooth

[システムメニュー] → [7:テスト]

テストするデバイスを選択します。

次の項目から選択します。

- ・Bluetooth: Bluetooth 通信のテスト (P.142)
- ・IrDA:赤外線通信のテスト(P.<u>143</u>)
- ・バーコード:バーコードの読取りテスト (P.144)
- ・画面:液晶画面の表示テスト(P.146)

・キー:キー動作とインジケータのテスト(P.147)

3-9-1 Bluetooth: Bluetooth 通信のテスト

他の端末とBluetoothを使って1対1の通信をします。

Bluetooth 通信実行前に、主局になる機器では従局になる機器(または端末)を、従局になる機器では 主局になる機器をデフォルトデバイスとして設定しておく必要があります。

「3-7-3 Bluetooth:Bluetoothの登録設定」-「■リモートデバイス」(P. 117)を参照してください。

主局でテストを開始します。

操作手順

①本製品が主局か従局かを設定します。



通信する Bluetooth 機器との接続方法を選択します。

主局は接続における主導権を持ち、従局は主局の指示に従います。主局 と従局間でのみ接続できます。 自分が主局であれば他の端末は従局で、自分が従局であれば他の端末は

なお、主局、従局はあくまでも接続段階における一時的な関係です。 接続後は主局、従局の関係は解消されます。

PET-100-M ユーザーズマニュアル

② 通信テストが開始されます。



3-9-2 IrDA:赤外線通信のテスト

他の端末と赤外線通信を使って1対1の通信をします。

操作手順

$[\flat \lambda \overline{\tau} \Delta \lambda \overline{\tau} -] \rightarrow [7: \overline{\tau} \lambda \overline{\tau}] \rightarrow [2: IrDA]$

赤外線通信テストが開始されます。



キーを押すと該当するキーデータを送信すると同時に、画面にも表示 (ローカルエコー)されます。

データを受信すると、反転表示で画面に表示されます。

他の端末と赤外線通信ポート同士を向かいあわせに配置し、他の端末も 同様に赤外線通信テストを開始します。
3-9-3 バーコード

バーコードの読取りテストをします。

なお、ここでのバーコード入力はトリガモードの影響を受けません。

操作手順

読取りモードになるので、読取りキーを押してバーコードを読取ります。

●通常モードでの読取り



通常読取りモードでバーコードを読取ります。 読取ったバーコード、バーコードの種類、桁数が表示されます。

●連続読取りモードでの読取り



読取りキーを1秒間長押しすると、連続読取りモードになります。 読取りキーが押されている間レーザが照射され、バーコードを読取り続 けます。読取りキーを放すと、通常読取りモードに戻ります。 読取ったバーコード、バーコードの種類、桁数に加え、読取成功率も表 示されます。

●文字コード変換表示

< バーコード テスト > 34393031373535313241 383333
EDASCI I (F2) オプ ション

【F1】キーを押すと、文字コードを変換して表示します。 ・ASCII(デフォルト)

ASCII文字コードで表示されます。

• HEX

16 進正数に変換して表示します。16 進変換すると「5」が「35」に、 「m」が「6D」のように、1 文字を 16 進正数 2 文字で表示されます。

【F1】キーを押すたびに表示が切替わります。

■バーコードオプション



【F2】キーを押すと各種バーコードオプションを設定できます。 なお、この設定はバーコードテストの間のみ有効になります。

●チェックディジット

チェックディジットをチェックするかどうかを設定します。

- [チェックをします]をOFF にする(デフォルト)
 チェックディジットをチェックしません。
- [チェックをします]をONにする
 チェックディジットをチェックします。

JAN/EAN/UPC

JAN/EAN/UPC のアドオンコードの読取り条件を設定します。

- 禁止(デフォルト)
 アドオンコードを読取りません。
- 許可 アドオンコードの有無を問わず、どちらも読取り可能です。
- アドオンコードのみ許可 アドオンコードのある JAN/EAN/UPC のみ読取り可能です。

●GS1 DataBar (RSS)

DataBar Stacked の読取り条件を設定します。

- 禁止(デフォルト) GS1 DataBar (RSS) Stacked を読取りません。
- 許可 GS1 DataBar(RSS) Stacked の読取りが可能です。

3-9-4 画面:液晶画面のテスト

画面に関するテストをします。

操作手順

[システムメニュー] → [7:テスト] → [4:画面]

テストパターンが表示されます。



液晶の表示状態をテストします。

テストを開始すると自動的にバックライトが点灯します。なお、電池残 量が少ない場合は点灯しません。

【PW】キー以外のキーを押すたびに、4 種類の表示内容がスライドの ように切替わります。

①12ドットフォントの各種倍角文字

②16ドットフォントの各種倍角文字

$$\downarrow$$

 \downarrow

③画面 4 隅から中心への反転表示(画面全体が反転表示になるまでキー は効きません)

 \downarrow

④ウェルキャットロゴ

全ての表示を終えると、バックライトを消灯し、1つ前の操作に戻りま す。

3-9-5 キー:キー動作とインジケータのテスト

キー入力と同時に、インジケータ(ブザー/バイブレータ/LED)もテストします。

操作手順

 $[\flat \mathsf{Z} \mathsf{F} \mathsf{L} \mathsf{X} \mathsf{Z} \mathsf{z} \mathsf{-} \mathsf{I}] \rightarrow [\mathsf{T} : \mathsf{F} \mathsf{Z} \mathsf{F}] \rightarrow [\mathsf{5} : \mathsf{F} \mathsf{-}]$

テストする全てのキーが表示されます。

< 7-721 >
D234567890 DE2E3F4F5F6F7E3LR D₽©⊙\$B®®

キーを押すと、画面中央の区切り線の上に表示されているアイコンが反 転表示(【ENT】キーのみ逆)するほか、区切り線の下にはキーに対応 したアイコンが表示(ローカルエコー)されます。

また、各キーに連動して、それぞれのキーに対応したインジケータが作 動します。

各キーに割当てられているインジケータは次の通りです。

+-	ブザー	バイブレータ	LED		
[0] ~ [9] 、 🖸	0	×	緑		
【ENT】、【C】、【BS】、【SF】、【PW】	0	○ ×			
読取りキー(^①)	×	0	橙		
(F1)	0	Х	赤		
[F2]	0	Х	赤		
[F3]	0	×	赤		
[F4]	0	×	赤		
【◀】 (【F5】)	0	×	赤		
【▲】 (【F6】)	0	×	赤		
【▼】 (【F7】)	0	Х	赤		
【▶】 (【F8】)	0	×	赤		

【C】キーが2回押されるか、全てのキーが押されるとテストを終了します。

参考

全てのキーテストが終了するまでは、【PW】キーによる電源オフや、【F4】キーによる バックライトの操作はできません。





4-1 製品の仕様

4-1-1 PET-100-M

CPU		ARM 系 32bit							
OS		μITRON							
メモリ	ROM	16MB(ユーザ領域 12MB)							
		ダウンロードファイルは 6MB が上限。また拡張子が OUT の							
		ウンロードファイルは 5MB が上限。							
	RAM	16MB(ユーザ領域 6MB)							
スキャナ部	読取コード	NW-7, Code39, JAN-13/8(アドオン可), UPC-A/E, インダスト リアル 2of5, ITF, Code93, Code128, EAN128, GS1 DataBar (RSS)							
	読取桁数	最大 74 桁(データ桁)							
	読取幅	最大 360mm							
	光源	赤色半導体レーザ							
	レーザクラス	クラス2 (JIS C 6802)							
	最大出力	lmW							
	波長	650±10nm							
	スキャン速度	100 スキャン/秒							
	読取幅	最大 360mm							
	PCS	0.45 以上(スペースおよびマージンの反射率 70%以上)							
	分解能	0.127mm							
表示 LED		禄/赤/橙							
液晶表示部	表示素子	FSTN ドットマトリクス モノクロ液晶							
	表示ドット数	132 (W) ×128 (H) ドット							
	表示文字数(漢字)	10 桁×10 行(12 ドットフォント)							
		8桁×8行(16 ドットフォント)							
	表示文字数(半角文字)	20 桁×10 行(12 ドットフォント)							
		16 桁×8 行(16 ドットフォント)							
	表示面積	38 (W) ×44 (H) mm							
	表示文字	JIS 第一、第二水準漢字、ANK、記号、外字							
		(横倍角、縦倍角、4倍角可能)							
	コントラスト調整	8 段階							
	バックライト	白色 LED(輝度調整可能)							

ブザー			ブザーによるビープ音						
			読取時、各種エラー	時に鳴動(ユーザ指定可能)					
バイブレータ	7		読取り時、各種エラー時に鳴動(ユーザ指定可能)						
キー入力部	キー数		25						
寸法			55 (W) ×158.5 (D) ×33.4 (H) mm						
重量			バッテリーパック	152g(バッテリーパック含む)					
			乾電池	175g(乾電池含む)					
本体充電機能			有り(ただし充電中	9の環境は充電器の温度仕様に従う)					
電源	メイン	ベッテリ	単三形アルカリ乾電	弛2本またはリチウムイオン二次電池 *1					
	バック	アップバッテリ	リチウム二次電池	(メンテナンスフリー) ^{*2}					
環境	使用温	÷ Z	-5°C~50°C * 3						
	使用湿	÷ Z	20~80%RH(ただ	し、結露なきこと)					
	保存温	÷ Z	-10°C~60°C						
	保存湿	÷ Z	10~90%RH(ただし、結露なきこと)						
	防滴・	防塵	IEC IP54(JIS 防塵防沫相当)						
	耐落下)))))))))))))	1.2m(コンクリートに 6 面各 5 回落下) *4						
	照度条	"牛	人工光 4,000lx まで						
			太陽光 80,000lx まで						
連続使用時間] バッテ	リーパック	130 時間 *5						
	乾電池		200 時間 *3 *5						
時計機能			年(4桁)月日時分秒/閏年補正あり、タイマー機能あり *6						
赤外線通信	(IrDA)		IrDA Ver1.2 物理層準拠						
			通信速度:最大 115200bit/s						
無線部	Bluetooth	適合国際規格	Bluetooth Ver1.2 🖄	差拠					
		適合国内規格	ARIB STD-T66						
		通信方式	スペクトラム拡散方	「式(周波数ホッピング方式) 					
		無線周波数	2.4GHz 带						
		通信速度	最大						
		送信電力クラ	Class2						
		ス							
		アンテナ	本体に内蔵						
		通信距離	最大10m *7						

*1 単三形アルカリ乾電池以外の電池は使用できません。

*2 深い充放電を繰返すと劣化による容量低下で寿命となることがあります。

*3 アルカリ乾電池は弊社推奨の「パナソニック株式会社の単三形アルカリ乾電池」をご使用くださ

い。

他のメーカー製単三形アルカリ乾電池を使用する場合、各乾電池メーカーおよび種類により仕様が 異なり、本製品に適さない可能性があります。単三形アルカリ乾電池を使用する場合は、各メーカ ーの仕様および使用上の注意を確認し、使用条件をお守りください。 低温環境で使用すると、使用時間が著しく劣ります。

- *4 試験値であり、保証値ではありません。
- *5 試験条件:10秒に2回読取り、Bluetooth非使用、LED 点灯、ブザーOFF、LCD バックライト OFF、 バイブ OFF、De. wmfleep モード。
- *****6 誤差=月差±60秒(25℃)
- *7 安定した通信のためには、端末と Bluetooth USB アダプタまたは Bluetooth 通信ユニットの間に 障害物がない状態で2m以内での使用を推奨します。

■外形寸法



4-1-2 QC-006 シングルチャージャ

	使用温度	0°C~40°C							
	使用湿度	20~80%(ただし、結露無きこと)							
	保存温度	-10°C~60°C							
去雨如	保存湿度	10~90%(ただし、結露無きこと)							
兀电副	充電時間	約 2.5 時間							
		※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる場合があります。							
	外形寸法	93 (W) ×117.5 (D) ×105.4 (H) mm							
	重量	225g							
	定格入力	AC100~240V 50-60Hz 75VA							
	定格出力	DC5.5V 2.5A 13.75W							
	重量	180g(AC コード含まず)							
AC アダプタ	外形寸法	41.5 (W) ×90 (D) ×28 (H) mm							
		(AC コード、DC コード含まず)							
	AC コード長	1.8m							
	DC コード長	1.8m							

4-1-3 QC-007 マルチチャージャ

	使用温度	0°C~40°C						
	使用湿度	20~80%(ただし、結露無きこと)						
	保存温度	-10°C~60°C						
本雪郊	保存湿度	10~90%(ただし、結露無きこと)						
小电叫	充電時間	約 2.5 時間						
		※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる場合があります。						
	外形寸法	375.5 (W) ×120 (D) ×106 (H) mm						
	重量	910g						
	定格入力	AC100~240V 50-60Hz 150VA						
	定格出力	DC12V 4.6A 70W						
	重量	300g(AC コード含まず)						
AC アダプタ	外形寸法	58 (W) ×132 (D) ×30 (H) mm						
		(AC コード、DC コード含まず)						
	AC コード長	1.8m						
	DC コード長	1.8m						

4-1-4 IU-004 USB 通信ユニット

	使用温度	0°C~40°C							
一般	使用湿度								
	保存温度	-10°C~60°C							
	保存湿度	10~90%(ただし、結露無きこと)							
	外形寸法	93 (W) ×117.5 (D) ×105.4 (H) mm							
	- 王里	215g							
	USB ケーブル長	lm							
	赤外線通信	IrDA Ver.1.2 物理層準拠							
		通信速度:115200bit/s							
通信部	外部インターフェース	USB2.0							
		コネクタ:TYPE B							
	電源	USB BUS パワー							
	消費電流	100mA 以下							

4-1-5 IU-004C USB 通信/充電ユニット

	使用温度	0°C~40°C						
	使用湿度	20~80%(ただし、結露無きこと)						
ሰჀ	保存温度	-10°C~60°C						
——	保存湿度	10~90%(ただし、結露無きこと)						
	外形寸法	93 (W) ×117.5 (D) ×105.4 (H) mm						
	重量	216g						
	USB ケーブル長	lm						
	赤外線通信	IrDA Ver.1.2 物理層準拠						
		通信速度:115200bit/s						
通信部	外部インターフェース	USB2.0						
		コネクタ:TYPE B						
	電源	USB BUSパワー *1						
	消費電流	100mA 以下						
	充電時間	約 2.5 時間						
充電部		※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる場合があ						
		ります。						
	定格入力	AC100~240V 50-60Hz 75VA						
	定格出力	DC5.5V 2.5A 13.75W						
	重量	180g(AC コード含まず)						
AC アダプタ	外形寸法	41.5 (W) ×90 (D) ×28 (H) mm						
		(AC コード、DC コード含まず)						
	AC コード長	1.8m						
	DC コード長	1.8m						

*1 通信機能のみです。充電は、AC アダプタを使用してください。

4-1-6 IU-004CL LAN 通信/充電ユニット

	使用温度	0°C~40°C						
	使用湿度	20~80%(ただし、結露無きこと)						
一般	保存温度	-10°C~60°C						
——	保存湿度	10~90%(ただし、結露無きこと)						
	外形寸法	93 (W) ×117.5 (D) ×105.4 (H) mm						
	重量	262g						
	赤外線通信	IrDA Ver.1.2 物理層準拠						
		通信速度:最大 115200bps						
通信部	外部インターフェース	Ethernet : Version2.0 / IEEE802.3						
		10BASE-T / 100BASE-TX						
		コネクタ:RJ45						
	充電時間	約 2.5 時間						
充電部		※電池の状態や使用環境によって充電時間が長くなる場合があ ります。						
	定格入力	AC100~240V 50-60Hz 96VA						
	定格出力	DC5V 3A 15W						
	- 王里	180g(AC コード含まず)						
AC アダプタ	外形寸法	49.8 (W) ×68.2 (D) ×26.3 (H) mm						
		(AC コード、DC コード含まず)						
	AC コード長	1.8m						
	DC コード長	1.8m						

4-2 読取仕様

4-2-1 レーザ光の照射角度

本製品のレーザ光の照射角度は、54°です。

4-2-2 読取深度

バーコードの読取り可能範囲のことを読取深度といいます。本製品の読取深度は次の図の通りです。



4-2-3 バーコードの傾きと読取り可能角度

バーコードと本体の傾き関係には、次の3種類があります。それぞれで、読取る角度が異なります。





ここで説明する値は、次の条件で測定しています。 ・レーザスキャナモジュール先端より 110mm

・使用ラベル

ピッチ角度、スキュー角度、デッドゾーン測定時: PCS=0.9、分解能=0.25mm、 Code39 9 桁 NW 比 1:2.5 マージン=10mm チルト角度測定時: PCS=0.9 分解能=0.26mm 13 桁 JAN マージン=10mm

■スキュー

バーコードに対し、垂直の上下 50°まで読取り可能です。





バーコード正面の垂直±8[°]は正反射によるデッドゾーンで、読取りが悪くなることが あります。上手く読取れない場合は、角度を変えて再度読取ってみてください。

■ピッチ

バーコードに対し垂直の左右 35°まで読取り可能です。



■チルト

バーコードに対しレーザ光を照射する角度です。





必ずレーザ光がラベルを横切るようにしてください。また、バーコード左右の余白(マ ージン)も照射してください。

4-3 画面出力キャラクタ

本製品の液晶画面には、JIS第一/第二水準漢字、ANK、記号、外字の他、弊社の独自文字であるキャラ クタが表示できます。キャラクタの文字コードは、次の通りです。

■全角文字

シフト JIS	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	А	В	С	D	Е	F
f040								-		М	/ 🔳		L	_		
f050	ΝU	s _Н	s _X	Eχ	Ε _Τ	EQ	Αĸ	ΒL	Bs	НŢ	LF	۷ _T	FF	с _R	so	sl
f060	DL	Dl	D 2	D3	D4	Νĸ	Sγ	Е _В	с _N	Eм	s _B	Еc	FS	GS	Rs	US
f070	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	\mathbb{W}	\bigcirc	BS	SF	\odot	
f080	Θ	Fl	F2	F3	F4	F 5	F6	F7	F8	F 9	F10	î	Ĩ	0	0ť	
f090	T	₹	T II	T il	ľ×	Ľ	(<u>R</u>)									
fOaO		ட	\bigtriangleup	S	<u>.</u>	9	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	0	$oldsymbol{igo}$	۲	0			♪
f0b0	ĽĽ		L	٢	"נ	₿		Q	\square	۲		Ø	0	⊗	•	►
fOcO											→	1	+	Ļ	1	$ \Longleftrightarrow $
f0d0							(₽	►		◀	•	•	∢ ►	⊳	
fOeO							•	4►	►	•	\bigcirc	\bigcirc	E _{NT}	^R ss	P _D F	QR
f0f0	JAN	U _{PC}	N _{₩7}	Ι _Τ	Ι _Ν _D	с _{з9}	C 128	E 128	M R _X	^M X I	W _P	Ι _Ν Τ	°93		_	

■半角文字

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	А	В	С	D	Е	F
$\boxed{0}$				()	Ø	P		р	△			ŀ	ŋ	111		
1	Г		ļ	1	A	Q	a	q			0'	7	Ŧ	4		
2	٦	⇒	"	2	B	R	b	r			ļ	1	Ÿ	×		
3	Ľ		#	3	C	S	C	S			ŀ	ウ	Ť	£		
4]		\$	4	D	T	d	t			N	I		t		,
5			%	5	E	Ų	e	u			٠	オ	ţ	1		
6	=	٦Ē	&	6	F	V	f	V			7	力	11	FI		
7	Ŷ	ľ	'.	7	G	W	g	W			7	Ŧ	Z	ラ		
8				8	H	Х	h	Х			4	7	ネ	IJ		
9	Ō	Ļ).	9	I	Y	i	y			ゥ	ケ).	N		
Α			*	:	J	Z	j	Z			I	J	75	V		
В	М	ψ	+	;	K	.[k	-{			オ	サ	ن لہ	П		
C		1	, `	<	L	¥	l	-			Þ	シ	7	7		
D			-	=	M],	m	}.			1	λ	Δ,	Y		S
Е		\rightarrow	1	>	N		n	-			Е	ł	た	¥.		Ŷ
F	₩	÷	/.	?	0		0				ÿ	y	7	•		力

4-4 ブザー周波数

ブザーの設定に使う周波数です(「3-7-5 音/バイブ:音量・LED・バイブレータの設定」(P. <u>123</u>)参照)。以下の 60 種類の周波数が設定できます。

単位	:	Hz

130	277	587	1244	2637
138	293	622	1318	2793
146	311	659	1396	2959
155	329	698	1479	3135
164	349	739	1567	3322
174	369	783	1661	3520
184	391	830	1760	3729
195	415	880	1864	3951
207	440	932	1975	4186
220	466	987	2093	
233	493	1046	2217	
246	523	1108	2349	
261	554	1174	2489	

4-5 レジストリ

システムメニューで設定される各種パラメータは、「レジストリ」と呼ばれます。

レジストリファイルは隠しファイルのため、システムメニューには表示されません。また、F ドライブ に保存されるためバックアップ電池が消耗しても消えることはありません。

レジストリは以下の5つに分類されています。

ユーザレジストリ	ー般的な設定値です。システムメニューで設定された項目の大部分はユ ーザレジストリになります。
セキュリティレジストリ	パスワードや PIN コードなどセキュリティに関連する設定値です。
ユニークレジストリ	Bluetooth のローカル BD アドレスや端末 ID といった、一般的に他の端 末とは重複することのない、その端末に固有の設定値です。
システムレジストリ	本製品が独自に使用する設定値です。システムメニューから設定、参照 することはできません。
デバイスレジストリ	電池残量等、端末動作中にリアルタイムに変化するパラメータを参照す るための項目です。デバイスレジストリに属する設定値はアプリケーシ ョンソフトからの参照のみが可能で、システムメニューから設定するこ とはできません。

デバイスレジストリを除く 4 種類のレジストリは、それぞれ独立したファイルに保存されます。この ため、F ドライブには常に 4 つのファイルが格納されています。レジストリはファイルとしてF ドライ ブに保存されますので、バックアップ電池が切れても消えることはありません。

デバイスレジストリは端末の動作状態によって変化するレジストリですので、ファイルには保存され ません。

クローン機能(「3-8-4 クローン:複製の作成」(P. <u>131</u>)参照)を使用すると、他の端末にレジスト リをコピーし、オリジナルの端末と同じ設定の端末を複製することができます。

初期化メニュー(「3-8-3 初期化:レジストリ/ドライブの初期化」(P.<u>129</u>)参照)を使用すると、レジストリを消去し、工場出荷時の設定に戻すことができます。





5-1 よくある質問と回答

よくある質問やトラブルと、それを解決するために確認する必要のある項目や参照箇所について説明 します。

Q:電源が入らない

■本製品の電極、バッテリーパックや乾電池ケースの電極が汚れたり変形したりしていませんか?

- 乾電池ケースやバッテリーパックは正しく装着されていますか?
- 単三形アルカリ乾電池やバッテリーパックが消耗していませんか?
- 単三形アルカリ乾電池の挿入方向はあっていますか?
- ●■「1-2本体の使い方」(P.29)/「1-5お手入れのしかた」(P.54)

Q:画面に何も表示されない

■本製品の電極、バッテリーパックや乾電池ケースの電極が汚れたり変形したりしていませんか?

- 乾電池ケースやバッテリーパックは正しく装着されていますか?
- 単三形アルカリ乾電池やバッテリーパックが消耗していませんか?
- 単三形アルカリ乾電池の挿入方向はあっていますか?
- ■ 「1-2 本体の使い方」(P.29)/「1-5 お手入れのしかた」(P.54)

<上記の項目を確認しても解決できない場合>

次の方法で、システムメニューを起動してください。

- 1. 乾電池を取外します。
- 2. 10 秒待ってから、乾電池を装着します。
- 3. 読取りキーを押しながら【PW】キーを押します。

Q:しばらく操作を中断したら、電源が OFF になってしまった

バッテリーパックが寿命になっていませんか?
 単三形アルカリ乾電池やバッテリーパックが消耗していませんか?
 単三形アルカリ乾電池以外の電池を使用していませんか?単三形アルカリ乾電池以外は使用できません。
 「1-2 本体の使い方」(P.29)
 オートパワーオフ機能が有効になっていませんか?----(P.93)
 アプリケーションソフトで省電力等の設定をしていませんか?

Q:充電できない

 ■本体は充電器に正しくセットされていますか?
 ■バッテリーパックは充電器に正しくセットされていますか?
 ■単三形アルカリ電池をセットしていませんか?
 ●厩「1-2-4 バッテリーの充電」(P.<u>36</u>)
 <上記の項目を確認しても解決できない場合> バッテリーパックの故障の可能性があります。
 弊社営業までお問合せください。

Q:電池の残量を確認したい

「3-8-1 電池残量:乾電池/バッテリーパック残量の確認」(P.128)を参照してください。

Q:日時を確認したい、修正したい

「3-3-2 時計:時刻を設定・確認」(P.<u>88</u>)を参照してください。

Q:液晶画面が見づらい

■ 液晶画面のコントラストの設定を調整してください。

■ バックライトの輝度を切替えてみてください。

参
照
「3-7-4 画面:液晶画面の設定」(P.<u>121</u>)

Q:システムメニューが起動しない

 ■ 強制的にシステムメニューを起動する場合は、読取りキーを押しながら【PW】キーを押します。
 ● ■「3-1-2 システムメニューの起動」(P.<u>78</u>)
 ■ 常時システムメニューで起動したい場合は システムメニューの[1:システム] → [1:自動実行]で[システムメニュー]のラジオボタンを選択 してください。
 ● ■「3-3-1 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行」(P.87)

Q:電源を ON にした時に起動するアプリケーションソフトを変更したい

- ■システムメニューの [1:システム] → [1:自動実行] で目的のアプリケーションソフトのラジオボタ ンを選択してください。
- |参|厩|「3-3-1 自動実行:アプリケーションソフトの自動実行」(P.<mark>87</mark>)

Q:別のアプリケーションソフトを起動するには

■システムメニューで[3:ファイル]→ [■ アプリケーション]を選択し、サブメニューから [実行]を選択してください。
 ●風「3-5 ファイル」-「■実行:アプリケーションソフトの実行」(P.<u>103</u>)

Q:バーコードが上手く読取れない

┃ ■ 読取れない可能性があるバーコードについては「5-2 読取りが困難なバーコード」(P. <u>171</u>)を参
照してください。
■ アプリケーションソフトの設定に合ったバーコードを読取っていますか?
アプリケーションソフトの設定によっては、特定の種類のバーコードが読取り禁止になっている場
合があります。
■ 正反射が起こっていませんか?
ビニールに覆われていたり、ラミネートしたバーコードではありませんか?⇒ 正反射の角度でな
くても読みにくいことがあります。角度を変えてお試しください。
■バーコードを正しくスキャンしていますか?
↓ 分解能と読取り距離には規定がありますので、バーコードのバー/スペースの最小幅に合わせた距離
でスキャンしてください。
■ 読取距離は正しいですか?(「4-2 読取仕様」(P. <u>157</u>)参照)
■ ラベルの品質は良いですか?
 ・ラベルの品質が悪いと、正しく読取れない場合があります。以下のような場合は、ラベル品質を
改善してください。
①薄い印字のバーコード(ドットインパクトプリンタで印字したり、複写伝票のようなバーコード)
②汚れたり、印刷の欠けたバーコード
③バー/スペースの幅が本製品の分解能を超える細さのバーコード
④左右の空白(クワイエットゾーン)のないバーコード(バーコードの左右に文字や罫線のあるも
の)
⑤印刷が滲んだり細ったりして、バー/スペースの幅が狂っているバーコード
⑥湾曲したり、しわの入ったラベル
・デコードレベルの設定を変えて再度読取を実行してください。デコードレベルの設定は「3-7-1
バーコード:バーコードスキャナの設定」-「■デコードレベル」(P. <u>112</u>)を参照してください。
■スキャン光(レーザ光)に異常がありませんか?
・読取り口に汚れやゴミが付着すると正常なスキャンができなくなります。
その場合は、乾いた柔らかい布でフィルタを拭いてください。
 ・スキャン光が多少二重になったり、輪を描いたりしても読めなくなることはありませんが、余り
にもひどい場合は故障が疑われますので修理をご依頼ください。

Q:ドライブの空き容量を確認するには

システムメニューの [6:メンテナンス] → [5:ドライブ] で確認します。

参照 「3-8-5 ドライブ:ドライブ情報の表示」(P.<u>136</u>)

Q: Bluetooth 通信ができない

■ 端末 ID は設定されていますか?「BluePorter-V」を使用する場合は端末 ID の設定が必要です。
(P. <u>108</u>)
■ 接続先リモートデバイスがデフォルトデバイスに設定されていますか?
■ 接続先リモートデバイスとセキュリティ設定は同一ですか?
●風 「3-7-3 Bluetooth: Bluetooth の登録設定」(P.115)
■ パソコンの接続先リモートデバイスは正しく設定されていますか?
・電源は ON になっていますか?
・接続は可能になっていますか?
・パソコン画面タスクバー右側の通知領域に表示される Bluetooth マークは白くなっていますか?
赤いままですと接続が確立されません。
■ 接続手順は正しいですか?
・パソコンと本製品を接続(P <u>.60</u>)
・PET-100-M 端末間通信(P. <u>67</u>)
・Bluetooth クローン「3-8-4 クローン:複製の作成」(P. <u>131</u>)
・Bluetooth のテスト「3-9-1 Bluetooth:Bluetooth 通信のテスト」(P. <u>142</u>)
・「3-7-3 Bluetooth:Bluetooth の登録設定」(P. <u>115</u>)を参照してください。
■ 弊社指定以外の USB アダプタを使っていませんか?
必ず、弊社指定の USB アダプタを使用してください。
■ Bluetooth が内蔵されたパソコンをリモートデバイスにしていませんか?

Q: 無線 LAN と Bluetooth を同一環境で同時使用できますか?

同時使用は可能ですが、無線の相互干渉により通信の遅れが生じる場合があります。

Q:ファイルの送受信中に「書き込みに失敗しました」と表示された

■Fドライブの空き領域が少ない場合などに表示されます。

F ドライブおよび S ドライブのファイルを削除して空き容量を増やしてからやり直してください。

Q:ファイルの送受信中に「タイムアウトです」と表示された

送信または受信待ち状態のままで一定時間が経過すると表示されます。

■パソコンの通信ソフトは起動していますか?

- 通信設定は正しく設定されていますか?
- ■本製品とパソコンは正しく接続されていますか?
- ●■ 「2-4 通信環境の設定」(P.61)/「2-5 アプリケーションソフトのダウンロード方法」(P.64)
- パソコンのリソースが不足していませんか?

通信ソフト以外のアプリケーションソフトなどが起動している場合、パソコンのリソースが不足することで、ファ イルの送受信に失敗することがあります。通信に必要のないアプリケーションソフトは、できるだけ終了して から再度通信してみてください。

Q:ファイルの送受信中に「接続に失敗しました」と表示された

 パソコン上で BluePorter-V や、BluePorter-L を使用したアプリケーションソフトは起動していま すか?
 目的のリモートデバイスとは異なるリモートデバイスに接続していませんか?
 セキュリティ設定はリモートデバイスと同じですか?
 端末 ID、リモートデバイスは正しく設定されていますか?
 パソコン側で同じ名前のファイルを使用(エディタで開いていたり、データベース関係でファイル がオープンされていたりなど)していませんか?
 「3-6 端末 ID:端末識別用 ID の設定」(P.<u>108</u>) / 「3-7-3 Bluetooth : Bluetooth の登録 設定」(P.115)

Q:アプリケーションソフトの起動やファイルの送受信ができない

■バッテリーパックの電圧が低いと、一部の機能が操作できなくなります。バッテリーパックは充電 されていますか?

参
 ●
 原
 「3-8-1 電池残量:乾電池/バッテリーパック残量の確認」(P.<u>128</u>)

Q:赤外線通信 (IrDA) ができない

■ USB ケーブルが抜けたりしていませんか?

■ USB 通信ユニットの USB ドライバソフトが接続するパソコンにインストールされていますか?

- 転送ユーティリティ BluePorter-V が接続するパソコンにインストールされていますか?
- ■LAN 対応転送ユーティリティ BluePorter-L が接続するパソコンにインストールされていますか?
- ■パソコン画面タスクバー右側の通知領域に BluePorter-V のアイコンが表示されていますか?表示 されていないと BluePorter-V がインストールされていても起動していません。
- ■本製品および IU-004/IU-004C/IU-004CL の赤外線通信ポート(窓)が汚れていませんか?
- ★
 「
 R
 「
 2-4
 通信環境の設定」
 (P.61)
 /1-5
 お手入れのしかた」
 (P.54)

Q:ファイルが壊れているようなのですが

- ■ファイルの書込み中(データ交信中、ファイル受信中、バックアップ中等)またはデフラグ中に、 電池を取外したり、誤って落としたり、強い衝撃を与えて電源が切れてしまった場合は、ファイル が壊れる恐れがあります。
 - ファイルを削除するか、パソコン等に転送してデータを復旧するなどの対応をしてください。 この処置を行っても正常に動作しない場合は、故障が疑われますので修理をご依頼ください。 「3-5 ファイル:ファイルの実行・送信・削除など」(P.101)
- ■アプリケーションソフトによっては電源を切る時にデフラグ処理、バックアップ処理をするものが あります。バッテリーパックや乾電池を交換する時は、必ず電源が切れていることを確認してくだ さい。

Q:本製品のシステム設定が初期化されているようなのですが

■設定はレジストリファイルに保存されていますので、上記のようなファイル破損が発生した場合、 初期化されることがあります。

Q:電源を入れたら「Sドライブを初期化しました」というメッセージが表示

された

- ■動作中にバッテリーパックや電池をはずしたり、落下等衝撃で電源が切れてしまった場合は正常な 終了処理がされないため、Sドライブのバックアップが行われません。
- ■購入後、初めて電源を投入した時にも同様のメッセージが表示されます。

Q:「システムエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった

■システムプログラムがエラーの原因を特定できなかった場合に表示されます。ハードウェア、シス テムプログラム、アプリケーションソフト等の障害、強度の静電気のような外部要因などの原因が 考えられます。システムエラーメッセージが表示された場合、【PW】キーを押すと電源が切れます。 次回起動時に可能な限り自己復旧します。 再度電源を ON してください。

Q: BluePorter-V の COM ポートがオープンできない

■BluePorter-V を組込んだパソコンで、弊社の WL7-KEY というソフトを使用していませんか? WL7-KEY が Ver1.02 以前ですと COM ポートが占有されてしまいオープンできません。恐れ入り ますが、弊社営業までご連絡願います。

5-2 読取りが困難なバーコード

次のようなバーコードは、読取れない場合があります。

●薄いバーコード

推奨 PCS 値は、0.45 以上です。



●かすれたバーコード

・全体にかすれたバーコード



・高さ方向に斜めのすじが入ったバーコード



●バーの欠落したバーコード

バーが1本以上欠落したバーコード



第5章 よくある質問と回答

●汚れたバーコード



●湾曲したバーコード

読取り可能な湾曲

JAN8 桁の場合: R ≧ 15mm 以上

JAN13 桁の場合:R≧20mm 以上

条件

分解能:0.254mm

マージン:10mm



●クワイエットゾーン不足のバーコード

使用するバーコードの規格を参照してください。

枠や罫線が近過ぎてクワイエットゾーンが不足



製品保証

■製品保証について

- 製品の無償保証期間は弊社出荷日より1年となります。ただし、無償保証期間内でも、次のような 場合は有償となることがありますのでご了承ください。なお、本製品に保証書の添付はございません。
 - シリアル番号のないものおよび確認できないもの(出荷日の管理が不可能なため)
 - マニュアル等に記載された使用方法および注意事項に反する取扱いによる障害
 - 故意または重大な過失による障害
 - 使用環境が所定条件から逸脱したことによる障害
 - 許可なく、改造または他機器の接続、取付けを行ったことによる障害
 - 災害、地震、水害等の天災地変による障害
 - お客様の作成されたソフトウェアおよびシステムによる障害
 - 使用上避けられない消耗による障害・部品交換(消耗品交換)
- 2. 製品の内容は、改良やバージョンアップなどにより、予告なく変更することがあります。
- 3. 本製品の運用の結果生じた損失については、全てに関しての責任を負いかねますので、ご了承くだ さい。



消耗品

■保守について

安心してご使用頂けるように、購入時に「保守契約」を締結されることをお奨めしております。 保守については、弊社ホームページの「カスタマーサポート」の「アフターサービス」でご案内して おります。

■修理について

修理のご依頼は、弊社ホームページの「カスタマーサポート」の「アフターサービス」にある修理依 頼表フォームをご利用ください。

http://www.welcat.co.jp/support/

■消耗品

消耗品(消耗部品)は、製品を使用し続けることで性能が低下してきます。製品の使用環境や使用頻度により性能低下までの期間は異なり、使用状況によっては弊社の保証期間より短い期間での交換(有償)が必要になることがあります。

- 操作キー(押しボタン)
- バイブレータ(振動モーター)
- レーザスキャナ (バーコード読取装置)
- 電極板(本体充電、バッテリーパック充電用電極とバッテリー端子)
- バッテリーパック
- バックアップ電池
 バックアップ電池はメンテナンスフリーですが、深い充放電を繰返すことにより、容量が大幅
 に劣化する場合があります。この場合は、寿命です。
- バッテリーパックケース(防水パッキン)
- 乾電池ケース(防水パッキン)

などが消耗品となります。

参照

ご使用が終わりましたバッテリーパックの取扱いは、「使用済みバッテリーパック (BP-001)について」(P.9)を参照してください。



付録-1 出荷時設定一覧

設定項目	設定可能範囲	出荷時設定値
自動実行プログラム	システムメニュー任意のアプリケーション ソフト	1:システムメニュー
メモリバックアップ	有効にする、有効にしない	有効にする
レジューム	有効にする、有効にしない	有効にしない
パスワード	4~30 文字の英数記号で大文字/小文字を判 別	
オートウェイクアップ	『毎月』『毎週』『毎日』のいずれかの指定 時刻	
オートパワーオフ時間	0000、または 0060~3600(秒)	0600(秒)
端末 ID	000~999	000
バーコード読取りキー操作	ノーマル、ダブル、リリース、オート	ノーマル
バーコードパワーセーブ	フルセーブ、クイックセーブ、ノーセーブ	フルセーブ
バーコードレーザ照射時間	00~60	20(秒)
バーコードデコードレベル	緩い、通常、厳しい	通常
キーリピート開始時間	0000 または 0100~1000	0500(ミリ秒)
キーリピート間隔	0000 または 0100~1000	0100(ミリ秒)
Bluetooth ローカルデバイ ス名	30 文字までの英数記号で大文字/小文字を判 別	PET-100
Bluetooth ローカルデバイ ス認証	有効にする、有効にしない	有効にしない
Bluetooth ローカルデバイ ス PIN コード	16 文字までの 16 進文字(0~9、A~F)	
Bluetooth リモートデバイ ス 1~7 デバイス名	30 文字までの英数記号で大文字/小文字を判 別	未登録
Bluetooth リモートデバイ ス 1~7BD アドレス	12 文字固定の 16 進文字(0~9、A~F)	00:00:00:00:00

設定項目	設定可能範囲	出荷時設定値
Bluetooth リモートデバイ ス 1~7 認証	有効にする、有効にしない	有効にしない
Bluetooth リモートデバイ ス 1~7PIN コード	16 文字までの 16 進文字(0~9、A~F)	
Bluetooth リモートデバイ ス検索オプション	1~9	9
画面コントラスト	レベル1~8	レベル4
バックライト輝度	高輝度にする、高輝度にしない	高輝度にしない(低輝度)
ボリューム	レベル1~8	レベル7
キークリック音	なし、クリック音、クリック音+音声、音声	なし
BHCP デバイスの種類	Bluetooth、IrDA	Bluetooth
BHCP スタートアップの種 類	無効にする、アプリケーション起動時、シス テムメニュー起動時	無効にする
BHCP 更新禁止項目	端末 ID	未設定

付録-2 サンプルバーコード



印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあり ます。

•JAN13





•JAN8





●UPC-E





●CODE39(C/D あり)





PET-100-M ユーザーズマニュアル

●CODE39(C/D なし)





●NW-7(C/D あり)





●NW-7(C/D なし)





•NW-7	(HEX)		
	аАВ	CDE	Fa



●ITF(C/D あり)




●ITF(C/D なし)





●ITF (標準バージョン ITF-14)











●ITF(アドオンバージョン ITF-6)





●CODE128 (コードセット A)

























付録-3 用語集

本マニュアルで使われている専門用語の意味を説明しています。

Fドライブ

アプリケーションソフト、データベースマスターファイルなどを格納するための領域です。パソコ ンからダウンロードしたアプリケーションソフトは、F ドライブに保存されます。

Sドライブ

アプリケーションソフトの動作中に一時的なファイル(テンポラリファイル)を格納するための領 域として使用します。

システムプログラム

本製品に搭載されている OS です。

システムメニュー

システムプログラムの機能を操作するプログラムです。

デフォルトデバイス

システムメニューのリモートデバイスリストに登録された Bluet oo th デバイスのうち、デフォルト に設定されたデバイスです。システムメニューでは、常にデフォルトデバイスに接続します。

バッテリーパック

充電式の電池です(BP-001)。

バックアップ電池

電池またはバッテリーパックをはずした時や、残量が少なくなった場合、内蔵時計のデータやファ イルの一時保存をするための電池です。

読取りキー

バーコードを読取る時に押します。

リモートデバイス

ローカルデバイスの接続先となる Bluetooth デバイスです。

ローカルデバイス

操作中の Bluet oo th デバイスを指します。本製品を操作している場合は、本製品がローカルデバイスになります。

バーコードハンディターミナル PET-100-M ユーザーズマニュアル

2014年12月 第7版発行 Copyright 2009 Welcat Inc.

株式会社ウェルキャット

http://www.welcat.co.jp/ info@welcat.co.jp

MO6PET100M